KAWAI

Concert Artist

# CA15

# 取扱説明書


ご使用前の準備

演奏ガイド

様々な機能を楽しむ

演奏を録音再生する

様々な設定を操作する

付録

このたびは、KAWAIデジタルピアノCA15をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本製品を存分にお楽しみいただき、末永くご愛用いただくために、
この取扱説明書をよくお読みの上、大切に保管くださいますようお願い致します。

# はじめに

## 取扱説明書について

はじめに、取扱説明書（本書）の「ご使用前の準備」（P.6）からお読みください。各部の名称と機能や、電源コードの接続や電源の入れ方を説明しています。
取扱説明書では、本製品をすぐお使いになれるよう、基本的な演奏ガイドから様々な機能を使いこなすための操作まで説明しています。また付録には本製品の組立方法などの資料がございます。

## 表記について

この取扱説明書では、操作方法を簡潔に説明するために［　］で囲まれた文字はボタン名を表し、［SOUND SELECT］ボタンのように表記します。

## 本製品の特徴

**電子ピアノ最高クラスのタッチ感を備えた『木製鍵盤 RM3 Grand Ⅱ / アイボリータッチ』**

電子ピアノの中で群を抜く鍵盤の長さと、グランドピアノと同様のアクション（シーソー構造）を備えた木製鍵盤により、グランドピアノに近い弾き心地で演奏することができます。さらに､優れた吸湿性と象牙の風合い､色を備えた象牙調仕上げ（アイボリータッチ）鍵盤により、指が滑りにくく心地よいタッチ感が得られます。また、弱く弾いたときに感じられるアコースティックピアノ特有のクリック感を実現するレットオフフィールも搭載、グランドピアノがもつ細やかなタッチの感触まで余すことなく再現します。

**カワイコンサートグランドピアノ EX の音を様々なタッチで 88 鍵全て録音した『88 鍵ステレオサンプリング、プログレッシブハーモニックイメージング音源（PHI）』**

本製品は、世界最高峰のピアノコンクールであるショパン国際ピアノコンクールで実際に使用した、カワイコンサートグランドピアノ EX の音を、88 個の鍵盤一つ一つについて丁寧に録音した秀逸のピアノ音を搭載しています。さらに、鍵盤を弾く強さにより大きく変化するピアノ音を様々な強さで録音することにより、従来の電子ピアノを凌駕する表現力を備えました。

**グランドピアノ のペダルの踏み心地を再現する、『Grand Feel Pedal System』**

本製品は、新開発の「グランド フィール ペダル システム」を搭載しています。グランドピアノに 3 本あるペダル " ダンパーペダル / ソステヌートペダル / ソフトペダル " これら全てのペダルの踏み心地を忠実に再現、グランドピアノに大きく近づきました。ダンパー・ペダルは従来同様、ハーフペダルに対応しています。

## 付属品（お確かめ下さい）

- ☐ 保証書
- ☑ 取扱説明書（本書）
- ☐ カワイデジタルピアノユーザー登録のご案内
- ☐ 音楽教室のご案内
- ☐ クラシカルピアノコレクション（楽譜集）
- ☐ 高低自在椅子
- ☐ 電源コード
- ☐ PS-154（AC アダプター）
- ☐ ヘッドホン
- ☐ ヘッドホンフック
- ☐ CA15 操作ガイド（1 枚）
- ☐ スタンド組立図

# 目次


2 **はじめに**

3 **目次**

4 **安全上のご注意**

## ご使用前の準備

6 **各部の機能と名称**

7 **鍵盤蓋を開ける / 閉める**

7 **譜面立てを利用する**

8 **電源を入れる / アジャスターの調整 / 音量を調整する / ヘッドホンを使う**

## 演奏ガイド

9 **いろいろな音色を楽しむ**

10 **ペダルを使う**

11 **デュアル演奏**

11 **4 ハンズモードを楽しむ（連弾演奏）**

12 **メトロノームを使う**

## 様々な機能を楽しむ

13 **デモ曲を聴く**

15 **レッスン機能を楽しむ**

15 1 練習したい曲を選ぶ

16 2 練習曲を聴く

17 3 片手で練習する

## 演奏を録音再生する

18 **演奏を録音する**

19 **録音した演奏を聴いてみる**

19 **録音した演奏を消去する**

## 様々な設定を操作する

20 **設定メニューについて**

20 **設定メニュー**

20 1 キーオフリリース

21 2 ダンパーレゾナンス（ピアノ音の共鳴音）

21 3 リバーブ（残響）

22 4 タッチ（鍵盤を弾く強さによる音量）

22 5 チューニング（本体のピッチ）

23 6 トランスポーズ（鍵盤の調）

23 7 ブリリアンス（音色の明るさ）

24 8 プログラム（音色）ナンバー送信

24 9 MIDI 送受信チャンネル

25 10 ローカルコントロール

25 11 マルチティンバーモード

26 **電源セッティング（オートパワーオフ）**

26 1 オートパワーオフ

## 付録

27 **MIDI について**

28 **困ったときは？**

29 **他の機器との接続**

30 **CA15 の組み立て方**

34 **CA15 仕様 / 各音色に対応する送受信プログラムナンバー一覧**

35 **KAWAI [Model CA15] MIDI インプリメンテーションチャート**

裏表紙 **お問い合わせ先**

# 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

ここに示した注意事項は､安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。表示と意味は下記のようになっています。

## 本体に表示されているマークについて

製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

注　意

感電の危険あり
本体をあけるな

注意：　火災や感電防止のため､本体を雨や湿気の多いところに､さらさないでください

このマークは感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

## 警告と注意、記号表示について

**警告**　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。

**注意**　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。

# 警告

100V 以外禁止

### 電源は必ず AC100V を使う

電圧の異なる電源を使用しないでください。発火の恐れがあります。

### 付属の電源コードは本機でのみ使用する

付属の電源コード以外を本機で使用しないでください。付属の電源コードを他の機器で使用しないでください。

コードを傷つけない

### 電源コードは無理に曲げたり、重いものを乗せたり、熱いものを近づけたり、傷つけたりしない

コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

分解禁止

### 本機を分解、修理、改造しない

水濡れ禁止

### 水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける , かける , こぼす）等しない

漏電によって、感電や発火の原因になります。

濡れ手禁止

### 水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。

### 異常が起こった場合、故障した場合は即座に電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜く

### 不安定な場所に置かない

怪我や破損の恐れがあります。

異物を入れない

### 本機の内部に異物を入れないようにする

水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

長時間使用禁止

**ヘッドホンは大音量で長時間使用しない**

聴力低下の原因になる恐れがあります。

落とさない

**本機を落としたり、強い衝撃を加えない**

怪我および破損の恐れがあります。

# ⚠注意

プラグ部分を持つ

**電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く**

コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

プラグを抜く

**長時間使用しない時は　必ず電源プラグを抜く**

落雷時に火災の原因になります。

使用禁止

**本機を次のような所では使用しない**

- **窓際など直射日光の当たる場所**
- **暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所**
- **戸外など極端に温度の低い場所**
- **極端に湿度の高い場所**
- **砂やホコリの多い場所**
- **振動の多い場所**

故障の原因になります。

電源を切る

**コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う**

本機や接続機器の故障の原因になります。

**電源は必ず付属の AC アダプターを使用する**

付属の AC アダプターは本機専用ですので他の機器で使用しないでください。

**AC アダプターに布団をかぶせたり、こたつの中で使用しない**

説明書を読む

**組立作業は必ず本書の「CA15 の組み立て方**（p.30）**」を読んで行う**

正しく組み立てないと落下、破損、怪我のおそれがあります。

また、ネジなどはゆるみを定期的に点検し、必要に応じて締めなおしてください。

取扱い注意

**組立作業や移動作業は必ず 2 人で行い、取り扱いに十分注意する**

重量物のため、本機を移動するときは水平に持ち上げるようにし、手をはさんだり、足の上に落とさないよう十分注意してください。

指をはさまれないよう注意

**鍵盤蓋で指などをはさまないよう注意する**

鍵盤蓋はゆっくり閉めてください。勢いよく閉めると指をはさみ、けがの原因になります。

上に乗らない

**本機の上に乗ったり、圧力を加えない**

変形したり、倒れる恐れがあり、故障やけがの原因になります。

使用しない

**イスは次のように使用しない**

- **イスを不安定な場所に置かない**
- **イスで遊んだり、踏み台にしない**
- **イスには 2 人以上で座らない**
- **イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）**
- **イス組立時、ネジをしっかり締める**

イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。長時間使用してイスのボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

ベンジン / シンナー禁止

**ベンジンやシンナーで本機を拭かない**

色落ちや、変形の原因になります。清掃するときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。

## お手入れについて

| | |
|---|---|
| **本体** | 乾いた柔らかい布で拭いてください。 |
| **ペダル** | 表面が汚れた場合、乾いた食器洗い用スポンジで拭くと綺麗になります。布ではかえって曇ってしまう場合があります（ゴールドのペダルのみ）。サビ落し用の磨き剤ややすり等は使用しないでください。 |

## 保証書について

本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

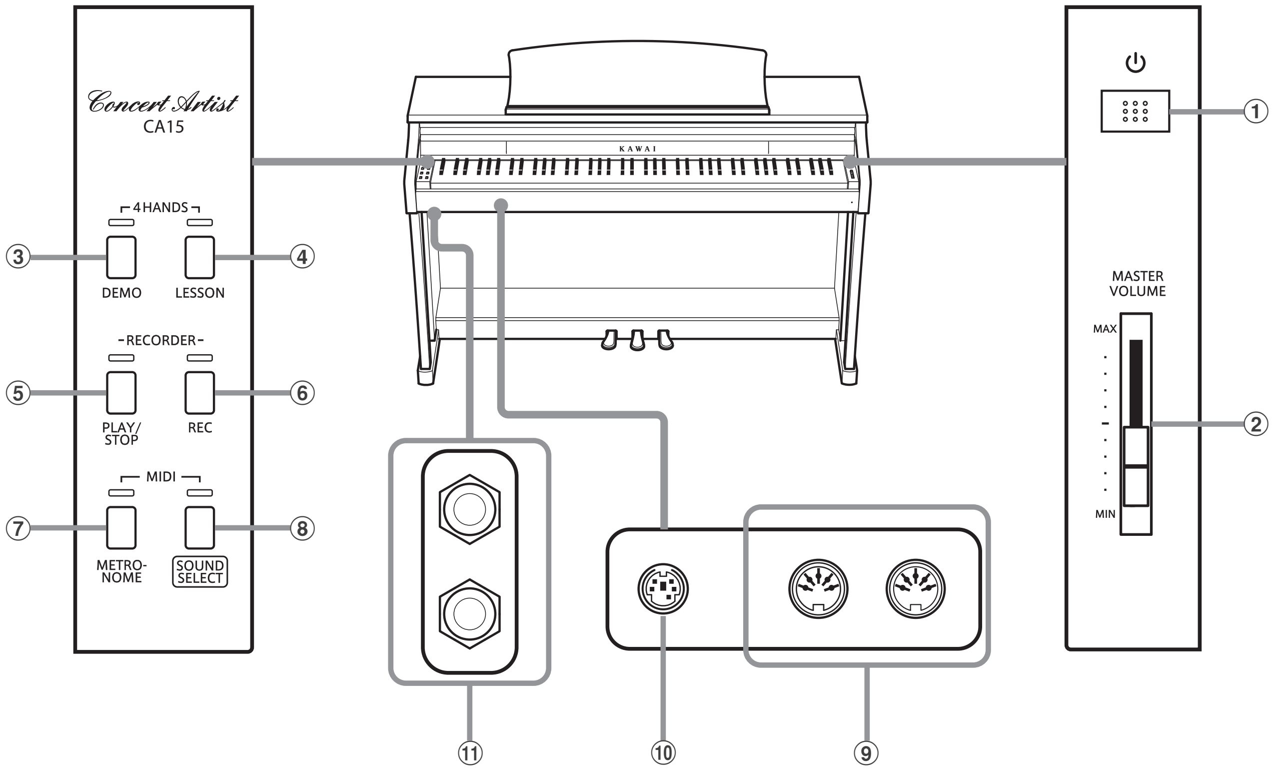
保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管ください。

## 修理について

万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡ください。弊社連絡先は取扱説明書の裏表紙に記載してあります。

# 各部の機能と名称






### ①［POWER（パワー）］スイッチ

電源をオン / オフする際に使用します。ご使用後は必ず電源を切ってください。

### ②［MASTER VOLUME（マスターボリューム）］スライダー

内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整する際に使用します。

### ③［DEMO（デモ）］ボタン

デモ曲を再生する際に使用します。（P.13 参照）

### ④［LESSON（レッスン）］ボタン

練習曲を再生する際に使用します。（P.15 参照）

### ⑤［PLAY / STOP（プレイ ストップ）］ボタン

本製品に内蔵している曲やお客様の演奏を録音したものなどを再生 / 停止する際に使用します。

### ⑥［REC（レック）］ボタン

演奏を録音する際に使用します。

### ⑦［METRONOME（メトロノーム）］ボタン

メトロノームのオン / オフやテンポ / 拍子 / 音量を設定する際に使用します。

### ⑧［SOUND SELECT（サウンドセレクト）］ボタン

音色を選択する際に使用します。

### ⑨［MIDI IN / OUT（ミディイン アウト）］端子

MIDI 規格に対応している楽器と接続する端子です。

### ⑩［PEDAL（ペダル）］端子

ペダルユニットから出ているペダルケーブルを接続する端子です。

### ⑪［PHONES（ホーンズ）］端子

ヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンは 2 つまで接続できます。

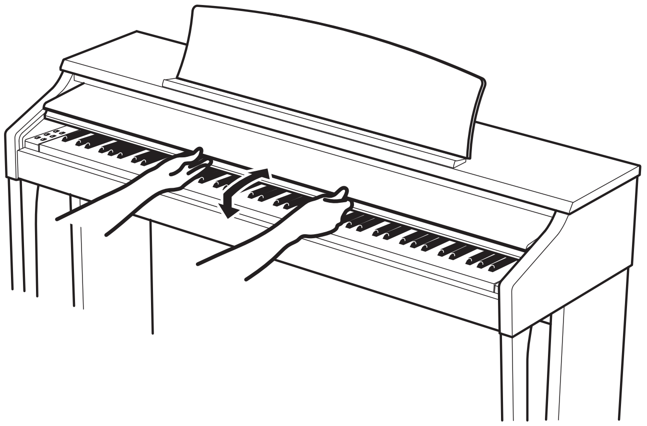
## 付属の CA15 操作ガイドの使用

本製品には CA15 操作ガイドが付属されています。このシートには本製品のボタンや鍵盤を使った操作方法が記載されており、大変便利です。

# 鍵盤蓋を開ける / 閉める

## 鍵盤蓋を開ける

取っ手を両手で軽く持ち上げ、奥に押し込みます。



## 鍵盤蓋を閉める

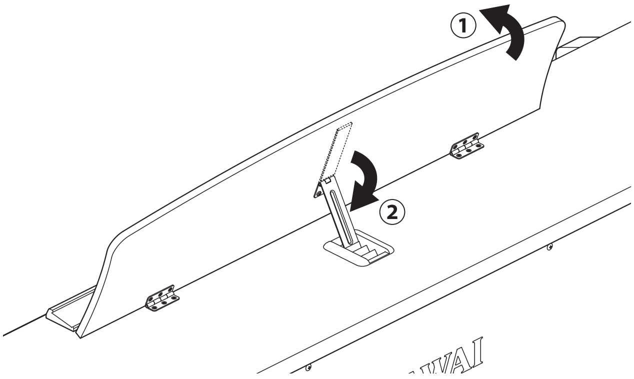
取っ手を両手でゆっくりと手前に引き、下へ静かに降ろします。

* 鍵盤蓋はゆっくり閉めてください。勢いよく閉めると指をはさみ、けがの原因になります。

# 譜面立てを利用する

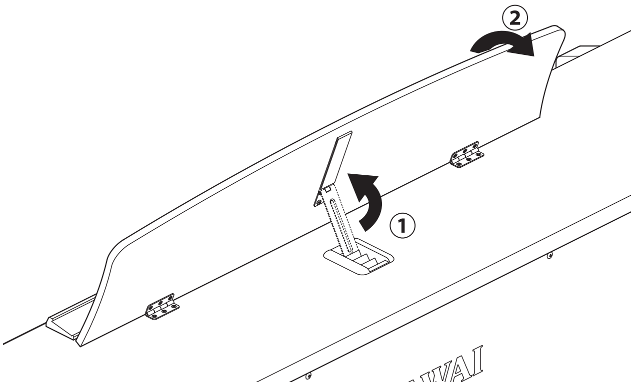
## 譜面立てを立てる

①譜面立てを手前に起こします 。
②金具を折り曲げ、譜面立てを固定します。




## 譜面立てを倒す

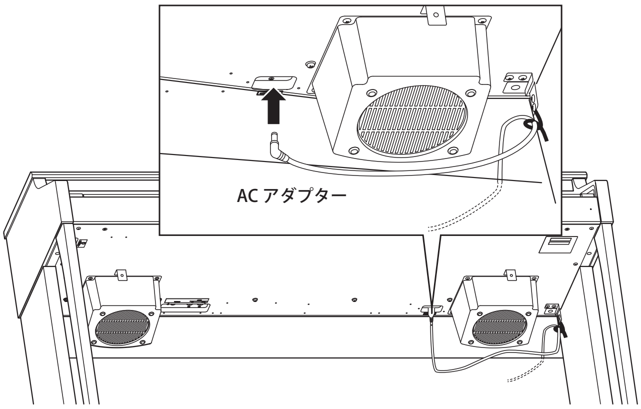
①金具を折り曲げます。
②譜面立てをゆっくりと倒します。



# 電源を入れる / アジャスターの調整 / 音量を調整する / ヘッドホンを使う

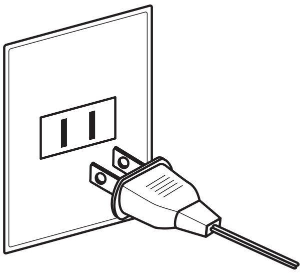
## 1. AC アダプターを本体に接続する

付属の AC アダプターを、本体底面に差し込みます。



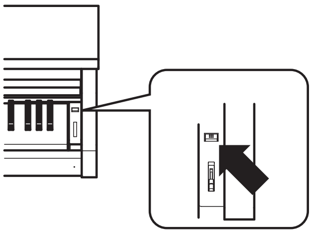

## 2. 電源コードをコンセントに接続する

電源コードを AC100V のコンセントに差し込みます。



## 3. 電源を入れる

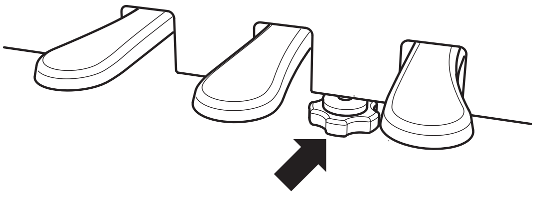
［POWER］スイッチを押して電源をオンにします。［POWER］スイッチを押すと［SOUND SELECT］が点灯し、電源ランプも点灯します。



電源を切るときは、もう一度［POWER］スイッチを押します。ボタン・電源ランプが消灯します。

## アジャスターについて

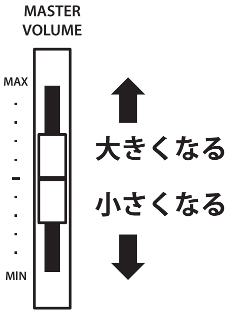
ペダル土台にはアジャスターがついています。アジャスターが浮いた状態で使用すると、ペダル土台を破損する恐れがあります。必ずアジャスターが床についた状態でご使用下さい。



## 音量を調整する

本体右にある［MASTER VOLUME］スライダーで音量を調整します。上側に動かすと音量が大きくなり、下側に動かすと小さくなります。

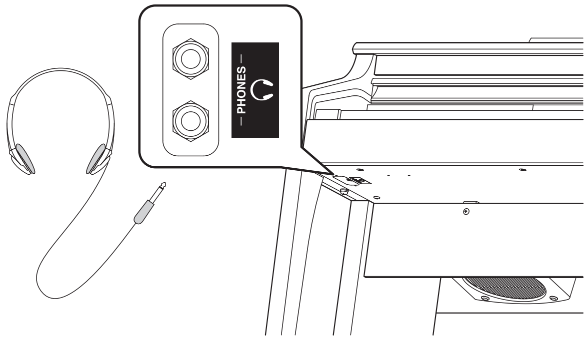
実際に鍵盤を弾いて音を鳴らしながら、音量を調節してください。




* ボリュームを大きくすると、演奏によっては音が歪む場合があります。その場合、音量を小さくして使用してください。

## ヘッドホンを使う

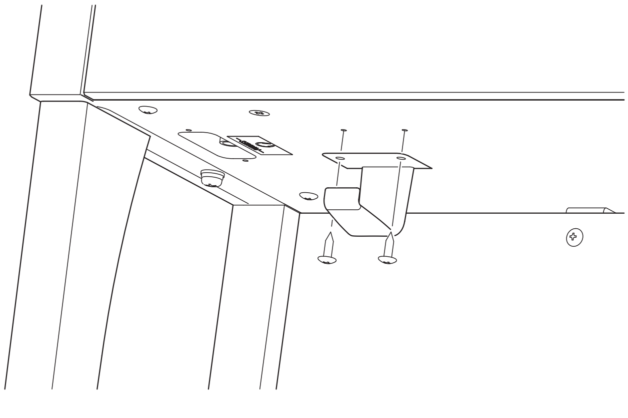
ヘッドホンを本体底面のジャックパネルの［PHONES］端子に差し込みます。ヘッドホンを接続すると、本体スピーカーからは音が出なくなります。




## ヘッドホンフックを使う

ヘッドホンを使わないときは、ヘッドホンフックにヘッドホンをかけておくことができます。

ヘッドホンフックを使用する場合は図のように取り付けてください。



ご使用前の準備

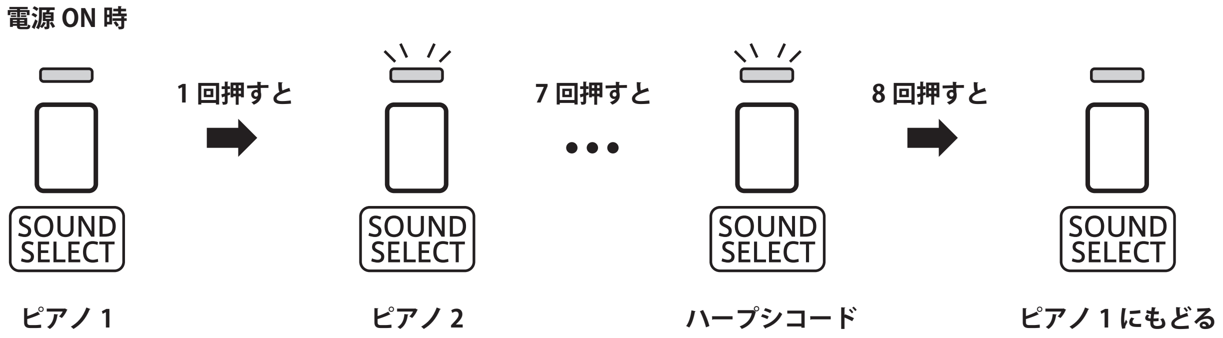
# いろいろな音色を楽しむ

本製品には 8 つの音が内蔵されていますので、さまざまな音楽に合わせた音で演奏を楽しむことができます。この内蔵されている音を「音色」といいます。音色の選び方は、次の 2 通りあります。電源 ON 時はピアノ 1 が選ばれています。

* ピアノ 1 を選択すると、ランプが点灯します。それ以外だと、ランプは点滅します。

## 音色の選び方 1

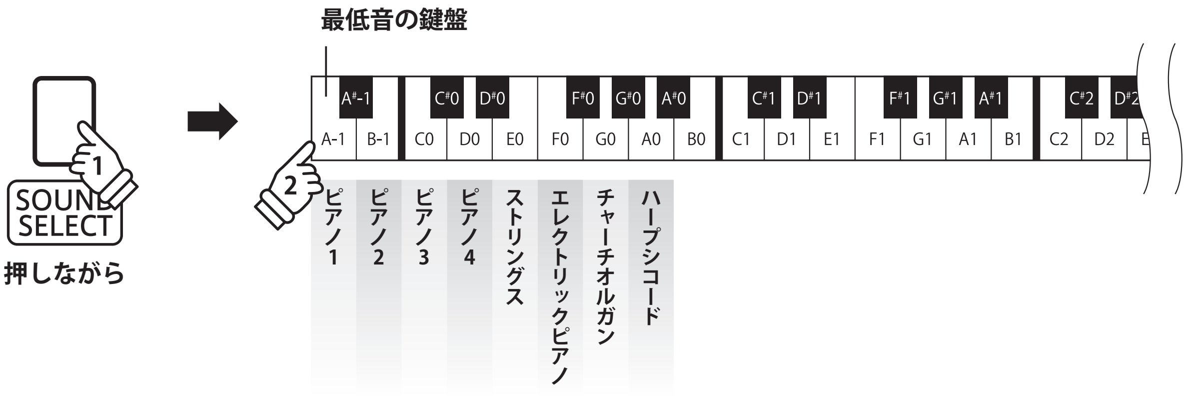
［SOUND SELECT］ボタンを押すごとに順番に音色を変更することができます。




## 音色の選び方 2

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、選択したい音色が割り当てられた白鍵を押します。

* 付属の CA15 操作ガイドを使うと便利です。

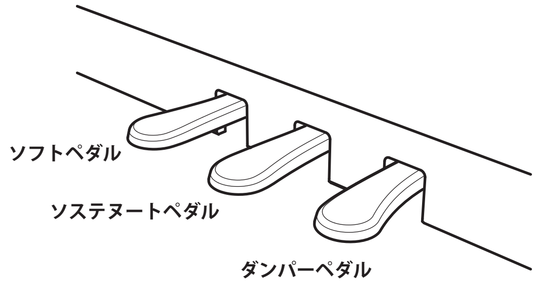



## ピアノ音色について

| 種類 | |
|---|---|
| ピアノ 1 | 豊かな拡がりのあるグランドピアノの音です。 |
| ピアノ 2 | すっきりと澄んだグランドピアノの音です。 |
| ピアノ 3 | 明るいポップス向きのグランドピアノの音です。 |
| ピアノ 4 | エッジの効いた明るくくっきりしたピアノの音です。 |

# ペダルを使う

ペダルにはダンパーペダル / ソステヌートペダル / ソフトペダルがあります。これらはピアノ演奏のときに使われ、次のようなはたらきがあります。




## ダンパーペダル（右のペダル）

このペダルを踏んで演奏すると鍵盤から手を離しても音が切れずに長く響かせることができます。

踏み具合により余韻の長さを調節することができます（ハーフペダル対応）。

## ソステヌートペダル（中央のペダル）

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

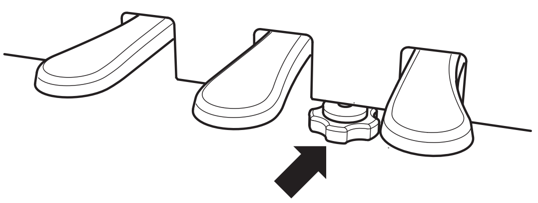
## ソフトペダル（左のペダル）

音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。

* 音色によっては効果がわかりにくいものもあります。

## アジャスターについて

アジャスターが浮いた状態で使用すると、ペダル土台を破損する恐れがあります。必ずアジャスターが床についた状態でご使用下さい。



## ペダルのお手入れについて

表面が汚れた場合、乾いた食器洗い用スポンジで拭くと綺麗になります。布ではかえって曇ってしまう場合があります（ゴールドのペダルのみ）。シルバーペダルは、布で拭いても問題ありません。サビ落し用の磨き剤ややすり等は使用しないでください。

## グランドフィールペダルシステムについて

本製品のペダルにはグランドフィールペダルシステムが搭載されています。従来のペダルより荷重が重く、3 本のペダルそれぞれがよりグランドピアノ EX に近い踏み心地となっています。

# デュアル演奏

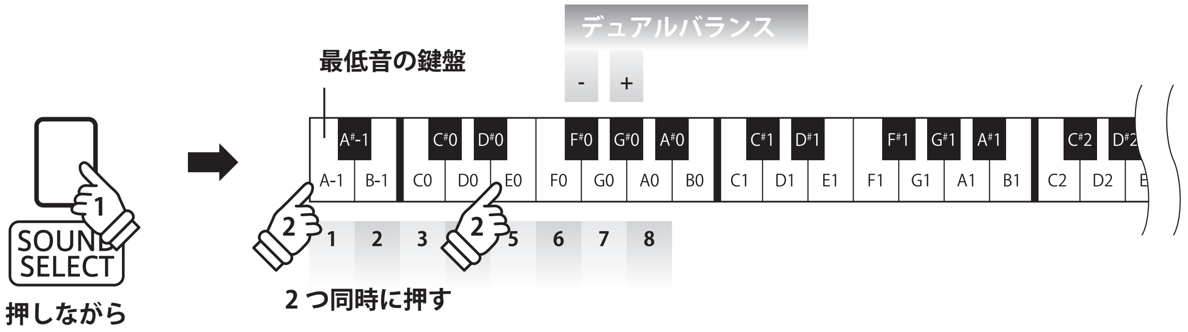
デュアル演奏とは 2 つの音色を重ね合わせる機能です。2 つの音色が同時に発音されメロディーをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出すことで音楽表現の幅が広がります。

## デュアル演奏に入る

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、選択したい 2 つの音色が割り当てられた白鍵を同時に押すと、2 つの音色を重ねることができます。（音色の割り当ては P.9 を参照）

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、－／＋に対応した黒鍵を押すと 2 つの音色の音量バランスを調整することができます。

* 付属の CA15 操作ガイドを使うと便利です。




## デュアル演奏を終了する

デュアル演奏の解除は［SOUND SELECT］ボタンを押します。ピアノ 1 が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

# 4 ハンズモードを楽しむ（連弾演奏）

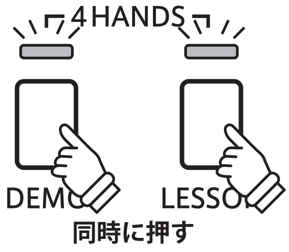
4 ハンズモードとは鍵盤を左右 2 つに分け、それぞれ同じ音域で演奏することです。この時ダンパーペダル（右ペダル）は右側の鍵盤のダンパーペダルとして、ソフトペダル（左ペダル）は左側の鍵盤のダンパーペダルとして動作しますので、まるで 2 台のピアノのように使うことができます。

またソステヌートペダルは右側の鍵盤にのみ有効となります。

## 4 ハンズモードに入る

［DEMO］ボタンと［LESSON］ボタンを同時に押すと 4HANDS（連弾演奏）ができる状態になります。

*［DEMO］ボタンと［LESSON］ボタンが点滅します。




## 音色変更

通常の音色を選ぶ方法で、音色を選ぶことができます。両方の音域が同じ音色に設定されます。

## 4 ハンズモードを終了する

再度［DEMO］ボタン、もしくは［LESSON］ボタンを押します。

## スプリットポイントの変更

スプリットポイントを変更したい場合は、［DEMO］ボタンと［LESSON］ボタン を押しながら鍵盤を押します。押した鍵盤が右側の最低音になります。

# メトロノームを使う

メトロノームを鳴らしてテンポを正しく練習することができます。

## メトロノームの ON/OFF

［METRONOME］ボタンを押します。［METRONOME］ボタンが点灯し、メトロノームが発音します。再度［METRONOME］ボタンを押すとメトロノームが止まり、［METRONOME］ボタンが消灯します。

* 電源 ON 時は、1/4 拍子，テンポ 120 に設定されています。

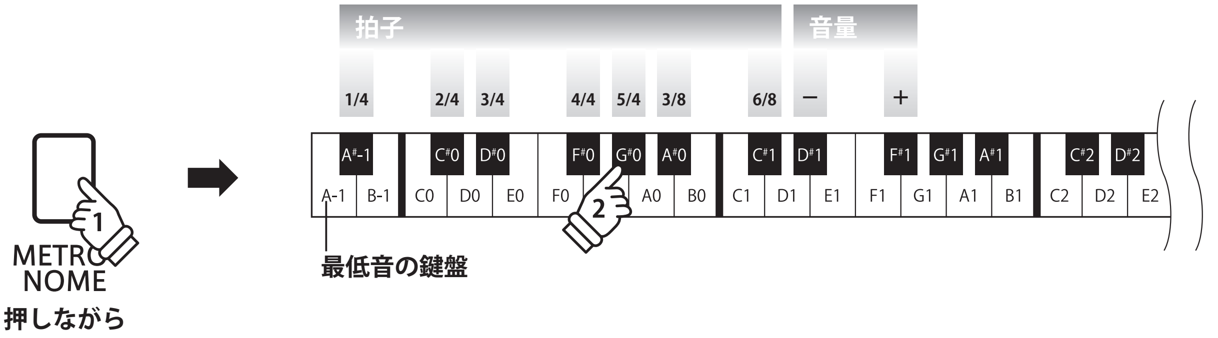
* 付属の CA15 操作ガイドを使うと便利です。

## 拍子・音量の設定

［METRONOME］ボタンを押しながら、対応した黒鍵を押すと拍子を設定できます。拍子は 1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 3/8, 6/8 より選択することができます。

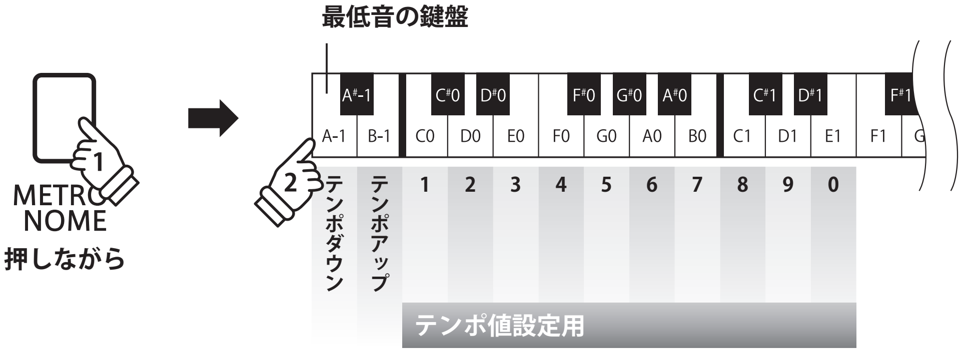
［METRONOME］ボタンを押しながら、－／＋を押すことで少しずつ音量を調整することができます。

*1/4 拍子選択時には、アクセント音が無いクリック音だけになります。




## テンポの設定

［METRONOME］ボタンを押しながら､対応した白鍵を押すとテンポの値を設定できます。値は 10 ～ 300 の範囲で設定できます。値は 1 分間の 4 分音符の拍数を表しています。




**操作例 1.**　メトロノームのボタンを押しながら、「0」「6」「0」の鍵盤を押すとテンポが 60 に設定されます。

**操作例 2.**　メトロノームのボタンを押しながら、「6」「0」の鍵盤を押します。メトロノームボタンを離すとテンポが 60 に設定されます。

**操作例 3.**　メトロノームのボタンを押しながら、テンポアップまたはテンポダウンの鍵盤をくり返し押すことで、現在のテンポから少しずつテンポを調整することができます。（テンポの値を 2 ずつ上下できます）

# デモ曲を聴く

本製品には音色ごとにその音色の特徴を生かしたデモ曲を内蔵しています。

| 鍵 | 音色名 | 曲　名 | 作曲者名 |
|---|---|---|---|
| A-1 | ピアノ 1 | ハンガリー狂詩曲　第 6 番 | リスト |
| B-1 | ピアノ 2 | 子犬のワルツ | ショパン |
| C0 | ピアノ 3 | オリジナル | カワイ |
| D0 | ピアノ 4 | オリジナル | |
| F4 | ストリングス | オリジナル | |
| G4 | エレクトリックピアノ | オリジナル | |
| A4 | チャーチオルガン | コラール前奏曲 " 目覚めよ、と呼ぶ声あり " | バッハ |
| B4 | ハープシコード | フランス組曲第 6 番 | |

更に、付属の楽譜集「クラシカルピアノコレクション」に収められているピアノ 29 曲（下記）も本体に内蔵しています。（ピアノ 4 デモ曲の後に再生されます）。

## クラシカルピアノコレクション

| 鍵 | 曲　名 | 作曲者名 |
|---|---|---|
| E0 | タンブラン | ラモー |
| F0 | 調子のよいかじ屋 | ヘンデル |
| G0 | メヌエット　ト長調（BWV.Anh.114） | バッハ |
| A0 | メヌエット　ト短調（BWV.Anh.115） | |
| B0 | メヌエット　ト長調（BWV.Anh.116） | |
| C1 | かっこう | ダカン |
| D1 | ガヴォット | ゴセック |
| E1 | メヌエット | ボッケリーニ |
| F1 | 主題と変奏「ピアノソナタ第 11 番 K.331」より第 1 楽章 | モーツァルト |
| G1 | トルコ行進曲「ピアノソナタ第 11 番 K.331」より第 3 楽章 | |
| A1 | メヌエット | |
| B1 | ピアノ・ソナタ「月光」より第 1 楽章 | ベートーベン |
| C2 | ピアノ・ソナタ「悲愴」より第 2 楽章 | |
| D2 | エリーゼのために | |
| E2 | ロンド・ファヴォリ | フンメル |
| F2 | 即興曲　作品 90 の 4 | シューベルト |
| G2 | 楽興の時　作品 94 の 3 | |
| A2 | 間奏曲 | |
| B2 | 即興曲　作品 142 の 3 | |
| C3 | 歌の翼に | メンデルスゾーン |
| D3 | 春の歌 | |
| E3 | ロンド・カプリッチョーソ | |
| F3 | 別れの曲 | ショパン |
| G3 | 雨だれの前奏曲 | |
| A3 | 子犬のワルツ | |
| B3 | ノクターン第 2 番 | |
| C4 | 幻想即興曲 | |
| D4 | 軍隊ポロネーズ | |
| E4 | 英雄ポロネーズ | |

# デモ曲を聴く

## 1. デモ曲を聴く

［DEMO］ボタンを押すと、ピアノ 1 のデモ曲が演奏されます。

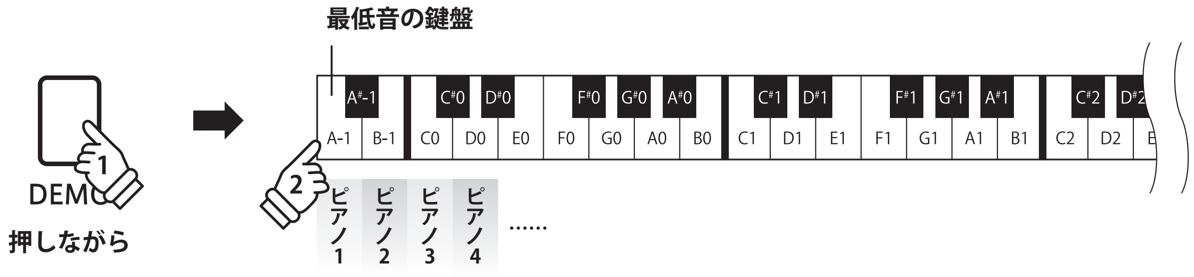
演奏を止めるには、［DEMO］ボタンを押します。

演奏を止めなければ、ピアノ、クラシカルピアノコレクション、その他の音色の曲が順に演奏されます。

## 2. デモ曲を選ぶ

デモ曲演奏中、［SOUND SELECT］ボタンを押すごとにデモ曲が変わります。

以下のように鍵盤でデモ曲を選ぶこともできます。



# レッスン機能を楽しむ

## 1 練習したい曲を選ぶ

本製品はバイエル（バリエーション 20 曲を含む 126 曲）、ブルクミュラー 25 の練習曲（25 曲）の練習曲を全曲内蔵しています。

ここではレッスン機能を使ってできることと練習したい曲を選ぶ方法を説明します。

* 練習するための楽譜はカワイ出版のものをご使用下さい。

### レッスン機能を使って

内蔵曲集から 1 曲を選んで次のような練習ができます。

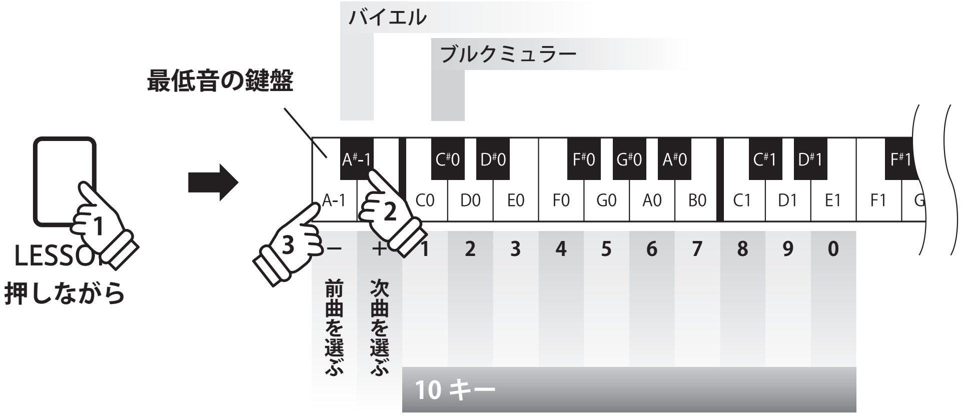
1. 見本曲を再生して曲想を覚える。
2. 見本曲の左手（右手）パートを再生しながら右手（左手）パートを練習する。
3. テンポを変更して練習する。

### 1. 曲集を選択する

練習したい曲集を選びます。［LESSON］ボタンを押しながら曲集が割り当ててある黒鍵を押します。

### 2. 曲を選択する

［LESSON］ボタンを押しながら対応した白鍵を押して曲番号を入力します。その後［LESSON］ボタンを離します。




### バイエルのバリエーションを選ぶ

バイエルは全部で 106 番まであり、そのうち 1 番と 2 番にはバリエーションがそれぞれ 12 曲と 8 曲ずつあります。

［LESSON］ボタンを押しながらバイエルの黒鍵を押し、1 または 2 の白鍵を押します。バリエーションの数だけ＋を押します。（1-2 の場合は＋を 2 回押します）

その後［LESSON］ボタンを離します。

| バイエルの構成 | |
|---|---|
| 1 番 | テーマ |
| 1-1 〜 1-12 | バリエーション |
| 2 番 | テーマ |
| 2-1 〜 2-8 | バリエーション |
| 3 番 | |
| 4 番 | |
| ⋮ | |
| 106 番 | |

# 2 練習曲を聴く

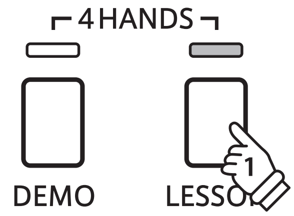
ここでは内蔵されている練習曲を聴く方法を説明します。

## 1. 練習曲を聴く

（曲選択は前ページを参照）

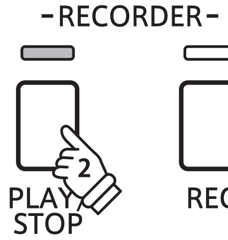
［LESSON］ボタンを押します。［LESSON］ボタンが点灯します。［PLAY / STOP］ボタンを押すと［PLAY / STOP］ボタンが点灯し、メトロノームが 1 小節鳴った後、見本曲が再生されます。

* 音色は自動的にピアノ 1 になります。

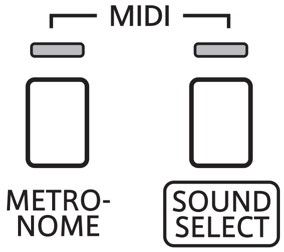



［PLAY / STOP］ボタンをもう一度押すと見本曲の再生が止まります。もう一度［PLAY / STOP］ボタンを押すと止めた位置の小節の 1 拍目から再生が始まります。

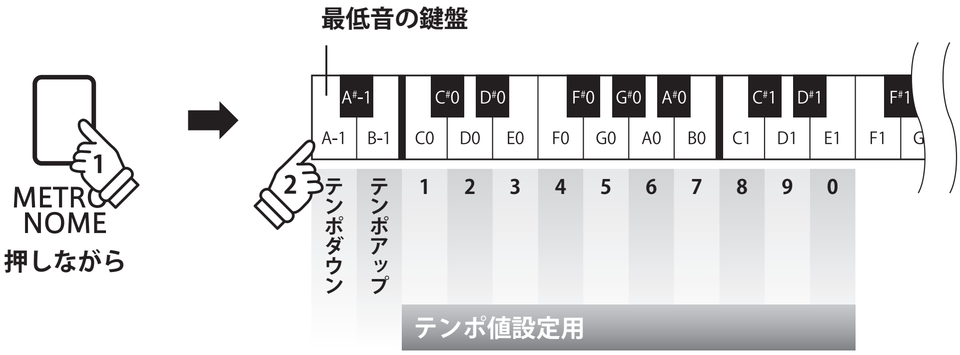
最初から再生したい場合には、［PLAY / STOP］ボタンを 1 秒以上押すか、選曲し直します。［PLAY / STOP］ボタンが消灯して先頭にもどります。




見本曲再生中はメトロノームが再生されませんが、メトロノームを鳴らしたい場合には、［METRONOME］ボタンを押します。曲に応じた拍子が鳴ります。




練習曲のテンポを変更して聴きたい場合には、［METRONOME］ボタンを押しながら対応した鍵盤を押してテンポの指定をします。元のテンポに戻す場合には［METRONOME］ボタンを押しながら鍵盤のテンポアップとテンポダウンを同時に押します。




## 2. レッスン機能を終了する

もう一度［LESSON］ボタンを押すとレッスン機能を終了します。

# 3 片手で練習する

ここでは練習曲を聴きながら右手、左手別々に練習する方法を説明します。

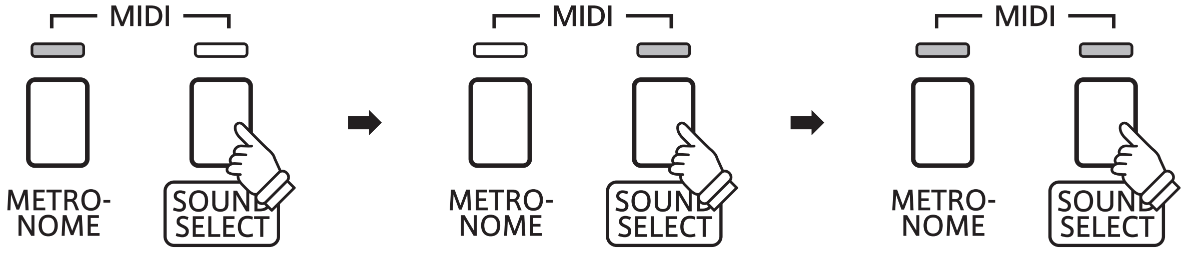
レッスンモードに入った時、［METRONOME］ボタンと［SOUND SELECT］ボタンの両方が点灯します。これは左右両方のパートが再生されていることを示しています。

## パートの選び方 1

練習曲を選択した後［SOUND SELECT］ボタンを押します。［SOUND SELECT］ボタンが消灯して［METRONOME］ボタンのみが点灯します。これで左手のパートのみ再生されるようになります。

［SOUND SELECT］ボタンを 2 回押すと［METRONOME］ボタンが消灯して［SOUND SELECT］ボタンが点灯します。これで右手パートのみが再生されるようになります。

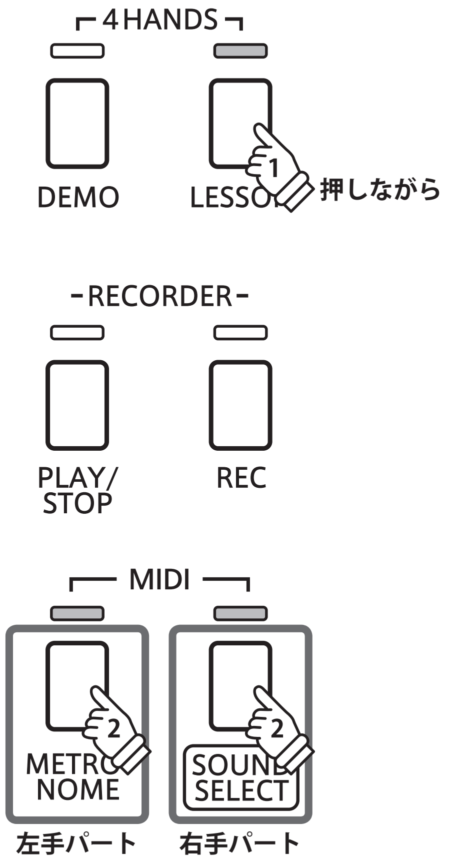
［PLAY / STOP］ボタンを押すと選択されたパートのみが再生されます。




**1 回押すと左手パートのみ**　**2 回押すと右手パートのみ**　**3 回押すと両手パートにもどる**

## パートの選び方 2

パートをダイレクトに選ぶことができます。［LESSON］ボタンを押しながら再生したいパートのボタンを押します。

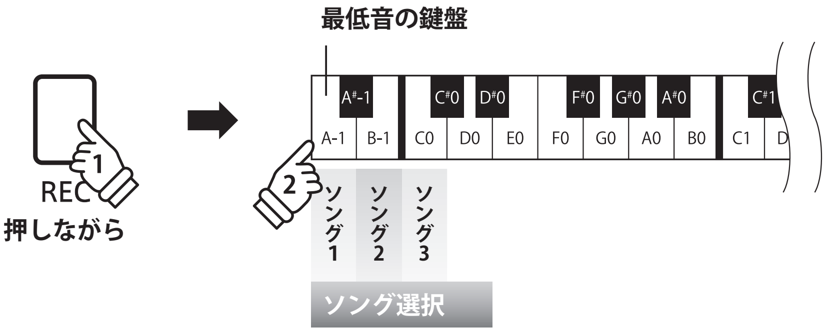


# 演奏を録音する

本製品は本体に 3 曲（3 ソング）まで録音して再生することができます。

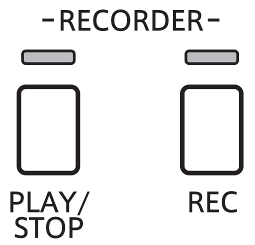
## 1. ソングの設定をする

［REC］ボタンを押しながら録音したいソング番号が割り当てられている白鍵を押します。すでに録音されているソングに録音すると、以前まであった演奏データが消去されて新しい演奏データが記憶されます。




## 2. 録音をスタートする

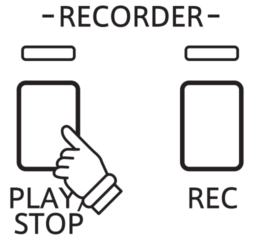
演奏を始めると自動的に録音がスタートします。このとき［REC］ボタンと［PLAY / STOP］ボタンが点灯します。
［PLAY / STOP］ボタンを押しても録音を開始できます。




## 3. 録音をストップする

演奏が終わったら［PLAY / STOP］ボタンを押して録音を終了します。［PLAY / STOP］ボタンと［REC］ボタンが消灯し録音が停止します。

* 録音データの書き込み中は［PLAY / STOP］ボタンと［REC］ボタンが点滅します。その間は決して電源を切らないでください。

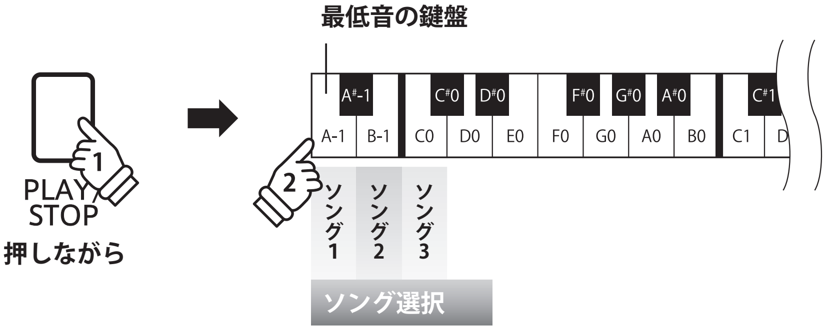


# 録音した演奏を聴いてみる

録音した曲を聴いてみましょう。

## 再生する

［PLAY / STOP］ボタンを押しながら聴きたいソング番号が割り当てられている白鍵を押します。
［PLAY / STOP］ボタンを離すと再生がスタートします。
演奏を停止するには、再度［PLAY / STOP］ボタンを押します。

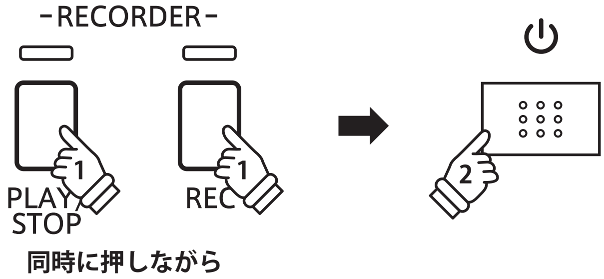



# 録音した演奏を消去する

本製品に録音した演奏を消去する方法を説明します。録音したすべての曲が消去されますのでご注意下さい。

## 録音した演奏を消去する

［PLAY / STOP］ボタンと［REC］ボタンを同時に押しながら、電源を入れます。
録音した曲がすべて消去されます。



# 設定メニューについて

本製品では演奏を楽しむためのさまざまな便利な設定をすることができます。

## 設定メニュー

設定メニューの内容は以下の通りです。

| 設定項目 | 電源 ON 時の初期設定 |
|---|---|
| 1. キーオフリリース | オン |
| 2. ダンパーレゾナンス（ピアノ音の共鳴音） | ミディアム |
| 3. リバーブ（残響） | オン |
| 4. タッチ（鍵盤を弾く強さによる音量） | ノーマル |
| 5. チューニング（本体のピッチ） | 440.0Hz |
| 6. トランスポーズ（鍵盤の調） | 0 |
| 7. ブリリアンス（音色の明るさ） | 0 |
| 8. プログラム（音色）ナンバー | オン |
| 9. MIDI 送受信チャンネル | 1ch |
| 10. ローカルコントロール | オン |
| 11. マルチティンバーモード | オフ |

# 設定メニュー

## 1 キーオフリリース

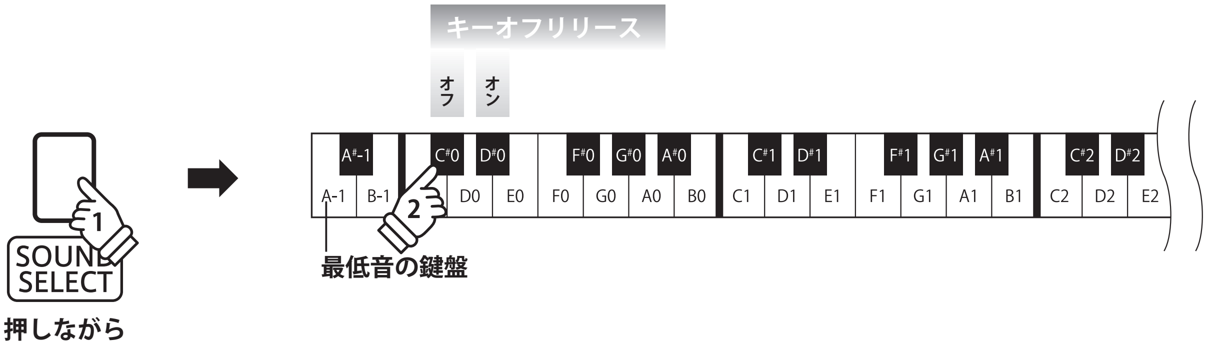
鍵盤を離す速さに応じて、ピアノ音の余韻の長さが変化します。（ピアノ 1 ～ 4 のみ）
この機能をオフにすると鍵盤を離す速さにかかわらず、一定の余韻の長さとなります。
電源 ON 時は、オンに設定されています。

### キーオフリリースの説明

| キーオフリリース | 説明 |
|---|---|
| オフ | 鍵盤を離す速さにかかわらず一定の余韻の長さとなります。 |
| オン | 鍵盤を離す速さに応じて余韻の長さが変化します。 |

### キーオフリリースの設定

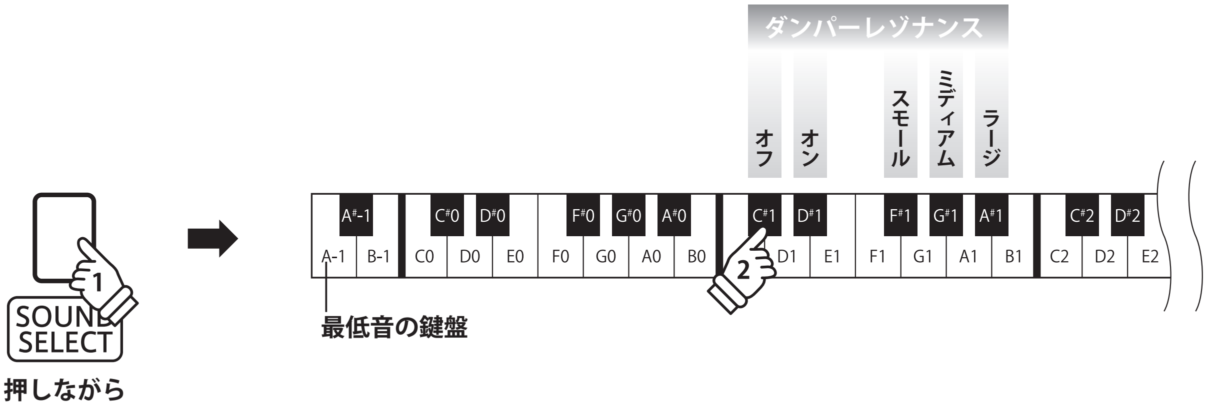
［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、設定したい項目の鍵盤を押します。



## 2 ダンパーレゾナンス（ピアノ音の共鳴音）

**ピアノ音色でダンパーペダルを踏んだ時の共鳴効果の深さを変えることができます。（ピアノ 1 ～ 4 のみ）**
**電源 ON 時は、ミディアムに設定されています。オフの状態の時に深さを設定するとオンの状態になります。**

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、「ダンパーレゾナンス」の「オン / オフ」の設定、深さの設定をします。




## 3 リバーブ（残響）

**リバーブを加えると、音に残響効果が加わりコンサートホールで演奏しているような深みのある美しい響きが得られます。各音色はあらかじめ最適なリバーブの設定になっています。**

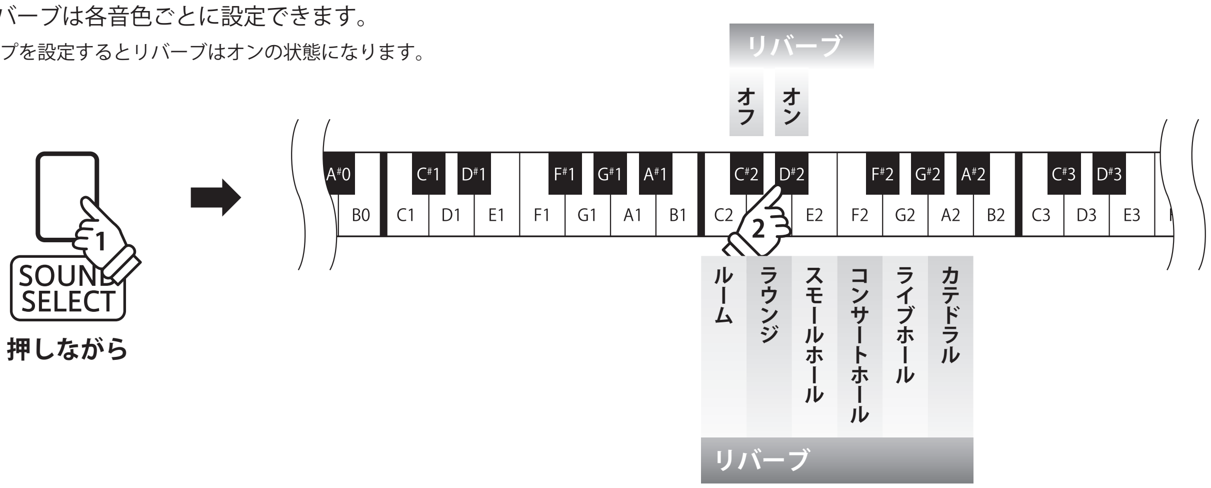
### リバーブの種類

| リバーブ名 | 効果 |
|---|---|
| ルーム | 室内での演奏時の残響を再現した効果です。 |
| ラウンジ | ラウンジでの演奏時の残響を再現した効果です。 |
| スモールホール | 小ホールでの演奏時の残響を再現した効果です。 |
| コンサートホール | クラシック向け大ホールでの演奏時の残響を再現した効果です。 |
| ライブホール | ライブ向け大ホールでの演奏時の残響を再現した効果です。 |
| カテドラル | 大聖堂での演奏時の残響を再現した効果です。 |

### リバーブの ON/OFF とタイプ変更

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、「リバーブ」の「オン / オフ」の設定、タイプの設定をします。
リバーブは各音色ごとに設定できます。

* タイプを設定するとリバーブはオンの状態になります。



# 4 タッチ（鍵盤を弾く強さによる音量）

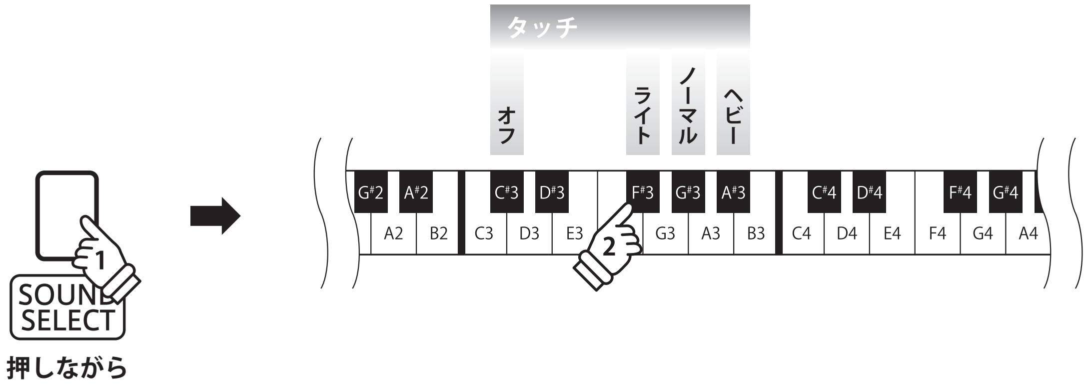
鍵盤を弾く強さによる音量を変更できます。指の強さ、お好みに合わせて、4 種類のなかから選択できます。電源 ON 時は、ノーマルに設定されています。

| 種類 | 効果 |
|---|---|
| ①ライト | 弱いタッチで弾いても大きな音がでます。 |
| ②ノーマル | アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。 |
| ③ヘビー | 強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。 |
| ④オフ | タッチの強弱に関わらず一定の音量で発音します。 |

## タッチの設定

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、設定したい項目の鍵盤を押します。

* 付属の CA15 操作ガイドを使うと便利です。




# 5 チューニング（本体のピッチ）

チューニングとは他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。合奏のときや CD の再生に合わせて演奏するときなど、音程を合わせたいときに使用します。

442Hz 等と周波数を設定する方法と、他の楽器の音に合わせて上げたり下げたりする 2 つの方法があります。電源 ON 時は、440.0Hz に設定されています。0.5Hz 単位で設定できます。

## 操作 1

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、「チューニング」の 10 キーで周波数を設定します。

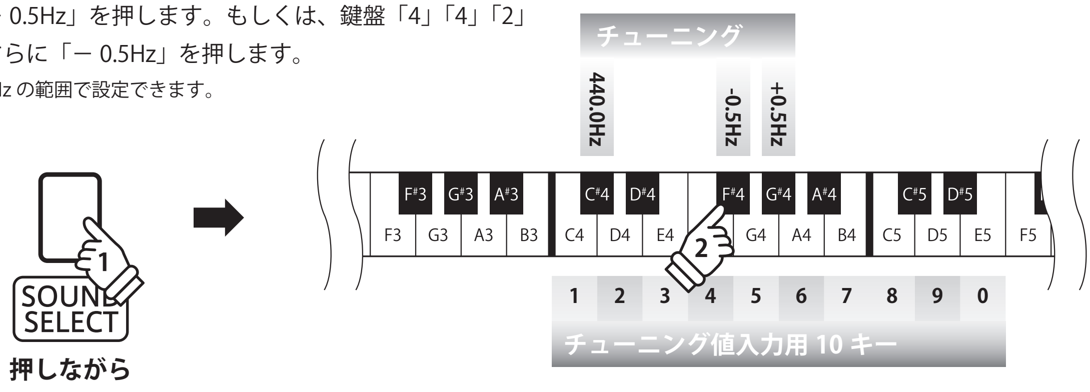
例えば､「441.5Hz」に設定する場合､鍵盤「4」「4」「1」を押し､さらに「＋ 0.5Hz」を押します。もしくは、鍵盤「4」「4」「2」を押し、さらに「－ 0.5Hz」を押します。

*427 ～ 453Hz の範囲で設定できます。

## 操作 2

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、「チューニング」の「＋ 0.5Hz/ － 0.5Hz」キーで上げたり下げたりします。

この操作では、0.5Hz 刻みで値が変更できます。



# 6 トランスポーズ（鍵盤の調）

トランスポーズとは半音単位で調を変えることです。キー（調）の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾く鍵盤を変えずに簡単に移調できます。

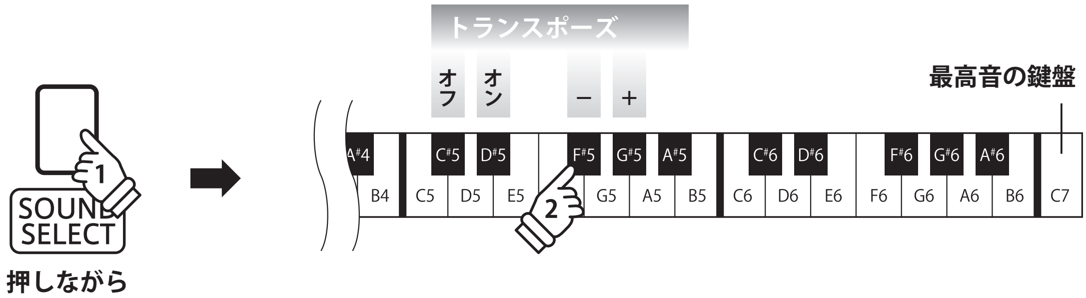
オンオフキーを使えば設定値をかえずにトランスポーズのオンオフができます。下図の鍵盤でトランスポーズの値を設定した場合はオンになります。

## トランスポーズの設定

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、キーを上げたい場合は＋の鍵盤を、キーを下げたい場合は－の鍵盤を、キーを元に戻したい場合はオフの鍵盤を押します。

* 付属の CA15 操作ガイドを使うと便利です。

* トランスポーズは -12 ～ +12（全 2 オクターブ）の間で設定できます。




# 7 ブリリアンス（音色の明るさ）

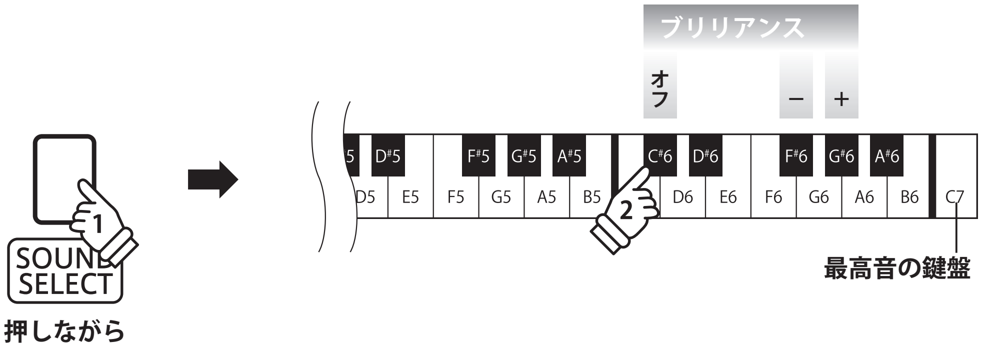
音色の明るさを調節します。

## ブリリアンスの調整

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、－／＋に対応する黒鍵を押します。
ブリリアンス値の設定できる範囲は［－ 10 ～＋ 10］です。
値が大きくなるほど音色が明るくなります。

## ブリリアンスをリセットする

［SOUND SELECT］ボタンを押しながら、オフに対応する黒鍵を押します。
ブリリアンスがリセットされます。



# 8 プログラム（音色）ナンバー送信

**本製品では 1 ～ 128 までのプログラムナンバーを送信することができます。**

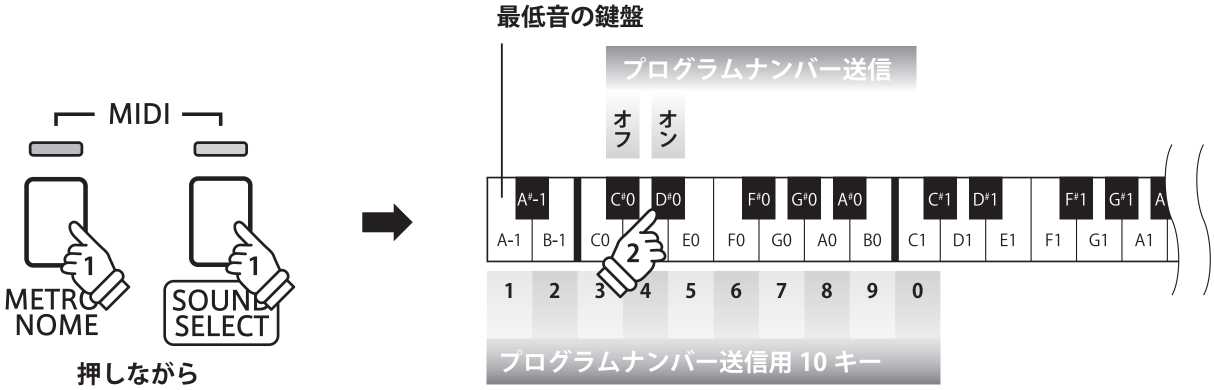
［METRONOME］ボタンと［SOUND SELECT］ボタンを同時に押しながら、「プログラムナンバー送信」の「オン / オフ」の設定、プログラムナンバーの送信をします。

* プログラムナンバーの入力は、3 桁で行います。例えば、プログラムナンバー 1 を入力する場合は、「0」「0」「1」と入力します。

* 001 ～ 128 までの範囲で送信可能です。

* 3 桁目が入力されると同時に、プログラムナンバーが送信されます。

* プログラムナンバー送信を「オフ」に設定するとエクスクルーシブ情報も送信されません。



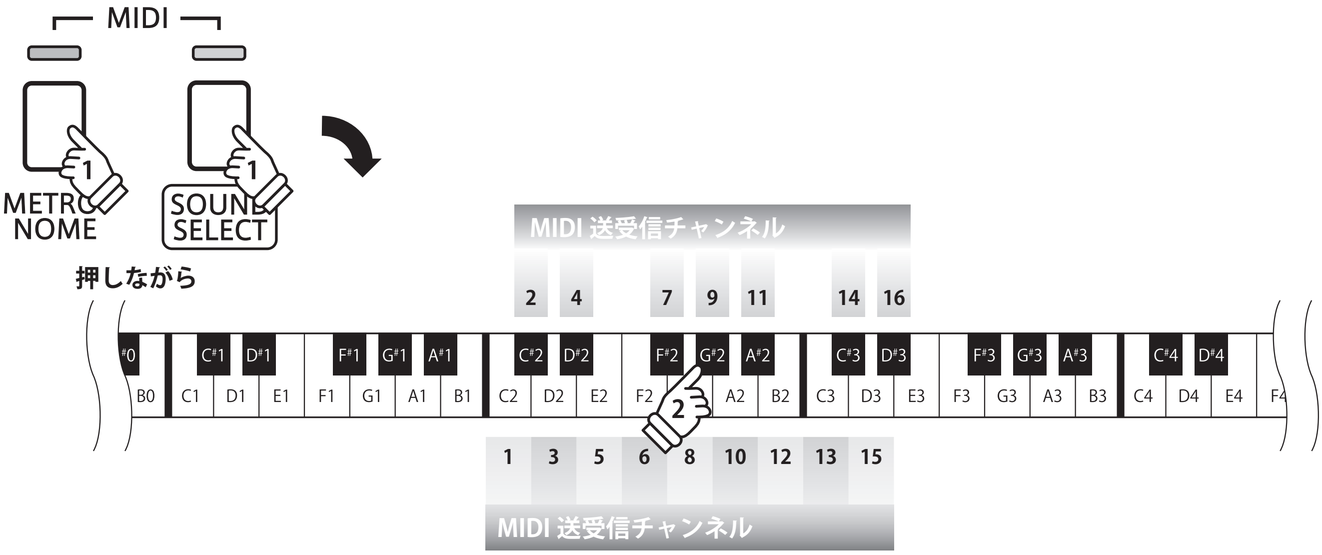

# 9 MIDI 送受信チャンネル

**接続された MIDI 楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。チャンネルは送信チャンネルと受信チャンネルの 2 種類がありますが、本製品では送受信を別々のチャンネルに設定することはできません。1 つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。**

［METRONOME］ボタンと［SOUND SELECT］ボタンを同時に押しながら、「MIDI 送受信チャンネル」の 1 ～ 16 に対応するキーでチャンネルを設定します。

* MIDI チャンネルは、1 ～ 16 の間で設定できます。

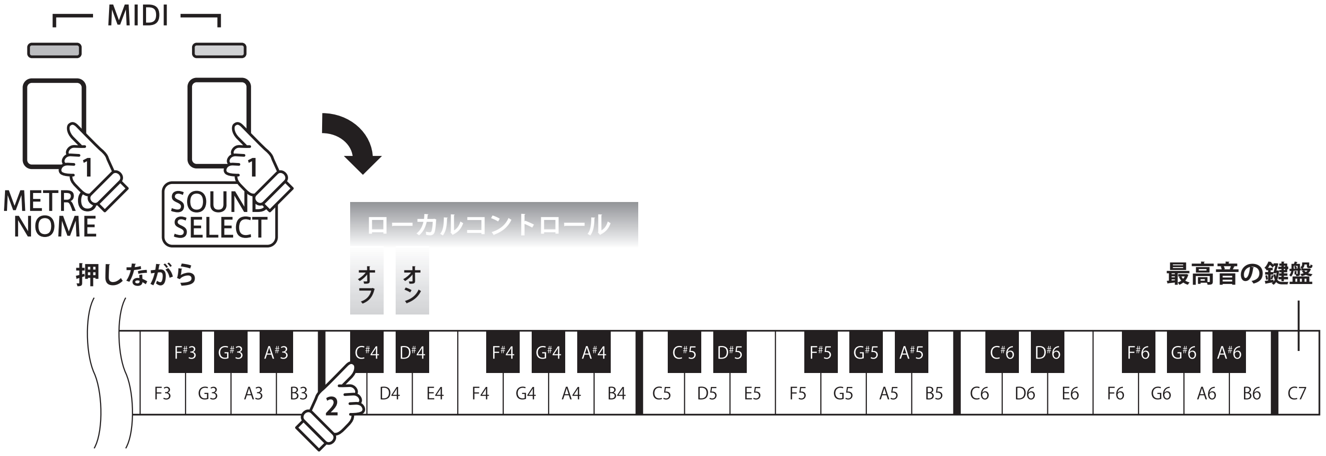
* 電源オン時は 1 ～ 16 チャンネルの全ての情報を受信します。



## 10 ローカルコントロール

ローカルコントロールでは本体の鍵盤を弾いて音を出すか・出さないかを設定します。
ローカルコントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。
ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らず MIDI 情報を送信するだけで MIDI 情報を受信したときのみ音が鳴ります。

［METRONOME］ボタンと［SOUND SELECT］ボタンを同時に押しながら、「ローカルコントロール」の「オン / オフ」を設定します。

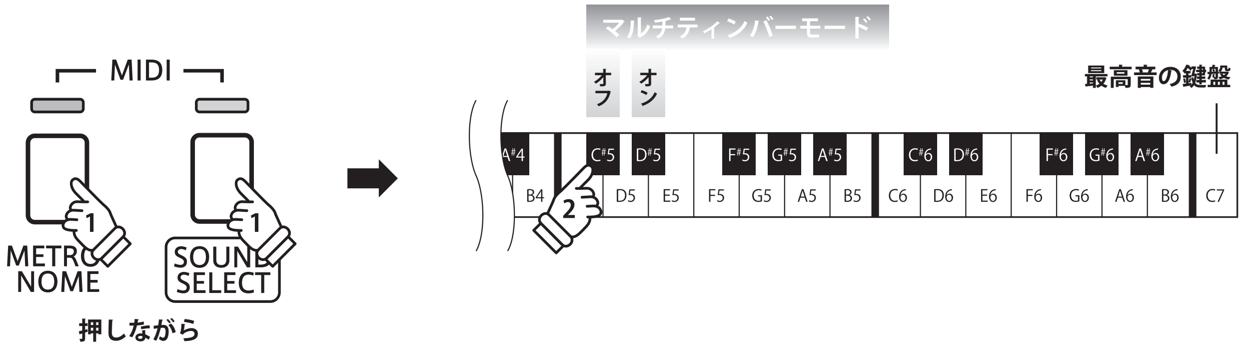



## 11 マルチティンバーモード

通常は、前述の方法で設定された MIDI チャンネル（1 ～ 16 のどれか 1 つ）で情報を送受信しますが、マルチティンバーモードをオンすることにより、複数の MIDI チャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。（受信プログラムナンバーに対応した音色は、付録の一覧（P.34）をご参照ください。）

この機能により、外部のシーケンサーを使って、本製品 1 台で複数の音色（マルチティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

［METRONOME］ボタンと［SOUND SELECT］ボタンを同時に押しながら、「マルチティンバーモード」の「オン / オフ」を設定します。



# 電源セッティング（オートパワーオフ）

## 1 オートパワーオフ

本製品では、何も動作していない状態が続いた場合、電源を自動で切る設定を行うことができます。

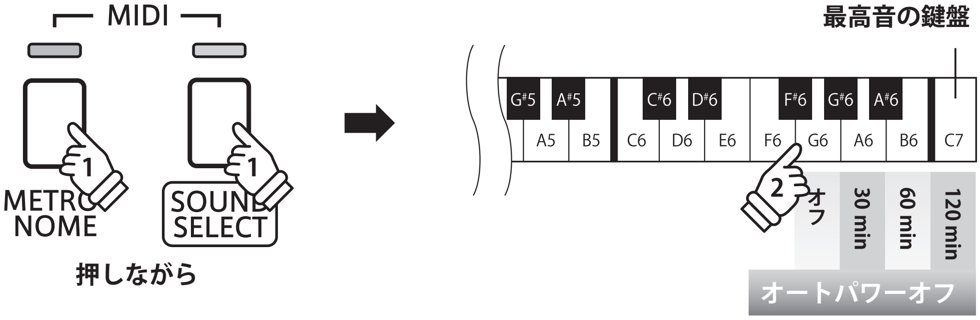
### 電源セッティングの設定内容

| 種類 | 内容 |
|---|---|
| オフ | 電源が自動で切れない設定です。 |
| 30min | 30 分何も動作していない状態が続くと自動で電源が切れます。 |
| 60min | 60 分何も動作していない状態が続くと自動で電源が切れます。 |
| 120min | 120 分何も動作していない状態が続くと自動で電源が切れます。 |

### 電源セッティングに入る

［METRONOME］ボタンと［SOUND SELECT］ボタンを同時に押しながら、設定したい時間に対応する鍵盤を押します。

* ここで設定した時間は自動的に保存され、次回電源を入れた時も適用されます。



# MIDI について

MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interface の略称で、シンセサイザーやシーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするするための世界統一規格です。

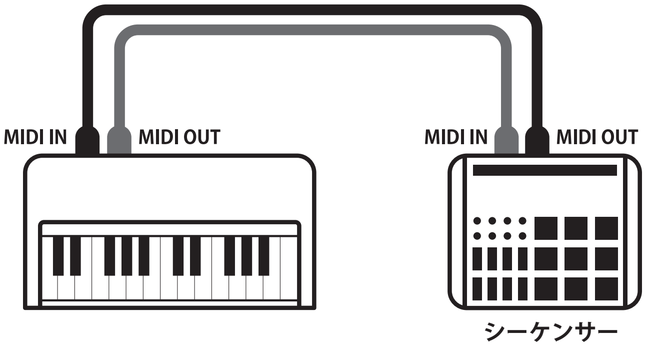
## MIDI 端子の種類

本製品の MIDI 端子には、IN，OUT の 2 つの種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。

| MIDI 端子名 | 機能 |
|---|---|
| IN | 鍵盤情報や音色情報を受信します。 |
| OUT | 鍵盤情報や音色情報を送信します。 |

## MIDI の使用例

図の様にシーケンサーに接続すれば、本製品の演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができデジタルピアノの練習に役立てることができます。また、本製品の設定をマルチティンバーオン（P.25 参照）にして録音 / 再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。




## 本製品の MIDI 機能

### 鍵盤情報の送信・受信

本製品を弾いて MIDI で接続したシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

### 送信・受信チャンネルの設定

送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

### プログラム（音色）ナンバーの送信・受信

本製品を弾いて MIDI で接続したシンセサイザーの音色を変えたり、その逆が可能です。

### ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルの ON/OFF 情報の送信・受信ができます。

### ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、本製品の音を出しているとき、シンセサイザーで本製品の音量をコントロールすることができます。

### マルチティンバーの設定

本製品が受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことができます。

### エクスクルーシブデータの送信・受信

フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

本製品の MIDI 機能についての詳細は、「MIDI インプリメンテーションチャート」（P.35）をご覧ください。

* “MIDI” は、社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

# 困ったときは？

## 音が出ない

1. ローカルコントロールがオフになっていませんか？（P.25 参照）

2. ヘッドホンが接続されていませんか？（P.8 参照）

3. 音量が 0 になっていませんか？（P.8 参照）

## ヘッドホンを使っていないのに、スピーカーから音が出ない

付属のヘッドホンには、プラグにアダプターが付いています。このアダプターが楽器に付いたままになっていると、スピーカーからの音は出ません。

## 特定の演奏、特定の音域で音が歪む

ボリュームを大きくすると、演奏によっては音が歪む場合があります。その場合、音量を小さくして使用してください。

## 特定のピアノ音色で異音やノイズが聴こえる

グランドピアノの音は様々な響きが複雑に混ざり合うことで豊かな音色を実現しています。それらの響きの中には、金属的な音やノイズ系の音も含まれています。また 1 鍵 1 鍵異なる響きをもっています。本製品はピアノに限りなく近い音を実現させているため、このような音も再生されます。これは異常ではありません。

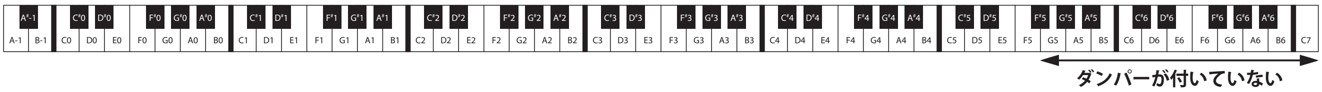
## ペダルがきかない / きいたりきかなかったりする

1. ペダルコードと楽器の接続をご確認ください。接続されていた場合は、一度抜いてカチッと音がするまでしっかりと差しなおしてみてください。

2. アジャスターが適正な長さになっているか、ご確認ください。

## 高音域で、ダンパーが効かない

ピアノにおいて、一番高い領域の鍵盤（下図）にはダンパーという止音装置が付いておりません。本製品ではその機構を忠実に再現しているため、その鍵盤についてはダンパーペダルを踏んでも踏まなくても音が伸びます。



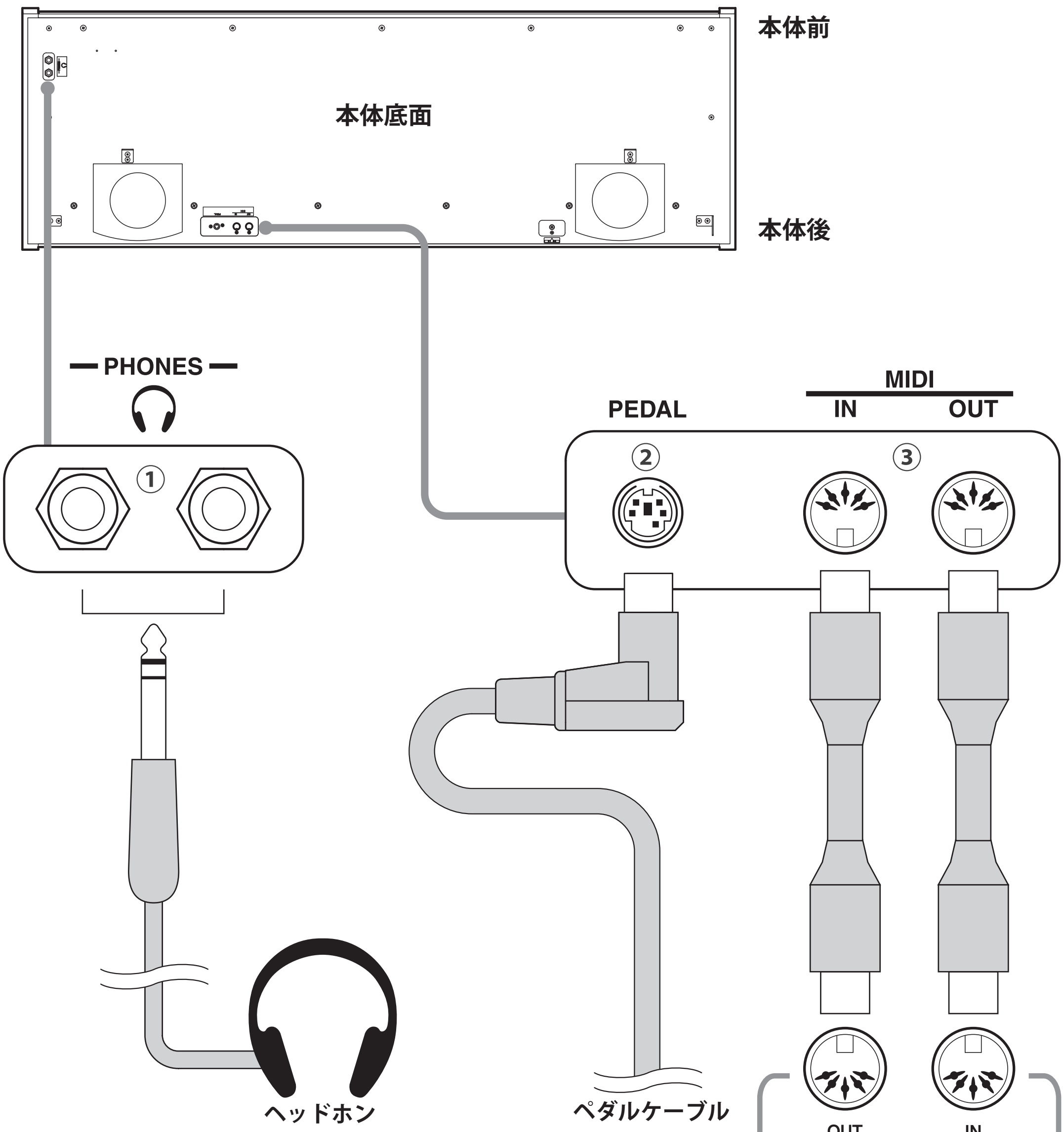

## ペダルを踏むと、ぐらぐらする

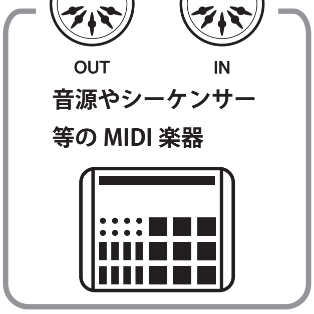
アジャスターが適正な長さになっているか、ご確認ください。

## レッスン曲がスタートしない

曲を選んだあと、［PLAY / STOP］ボタンを押してください。

# 他の機器との接続




## ① PHONES（ヘッドホン端子）

ヘッドホンを接続する端子です。2 本まで接続できます。

## ② PEDAL（ペダル端子）

ペダルユニットから出ているペダルケーブルを接続する端子です。

## ③ MIDI（ミディ）

MIDI 規格に対応している楽器と接続する端子です。

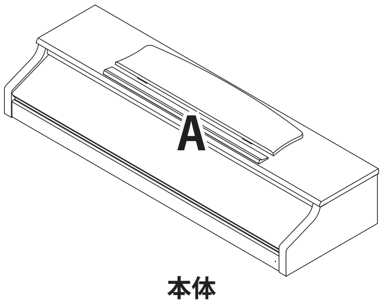
**・他の機器と接続する時は本製品の電源を切ってから行ってください。電源が入っている時に行うとノイズ音が発生し、アンプの保護回路が働き本製品の音が出なくなることがあります。出なくなった場合はもう一度電源を入れ直して下さい。**

# CA15 の組み立て方

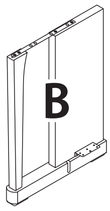
**組立作業は必ず 2 人で行ってください。**
**本機を移動するときは、水平に持ち上げるようにし、手をはさんだり、足の上に落とさないよう十分注意してください。**

## 部品の確認

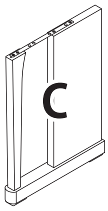
組み立てる前に、部品がそろっていることを確認してください。また、プラスドライバーをご用意下さい。



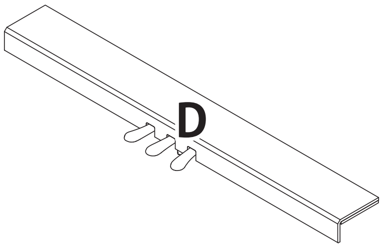
本体



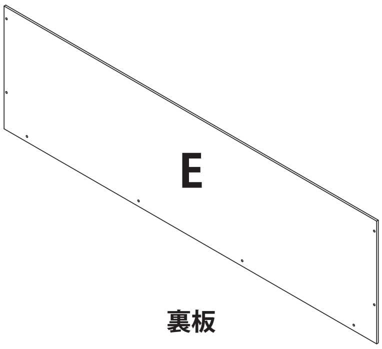
側板 1



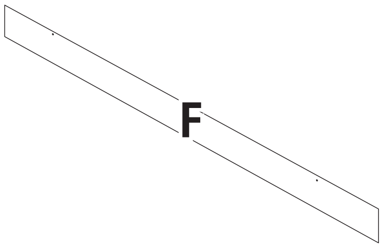
側板 2



ペダル土台（アジャスター付）



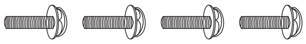
裏板



下前板

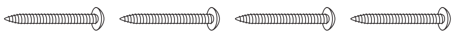
**ネジセット**

ⓐネジ（ワッシャー付）：4 本

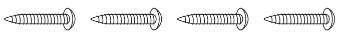


ⓑ先の平らな短いネジ（4 x 12mm）：2 本

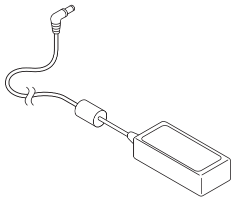
ⓒ長い黒ネジ（4 x 30mm）：4 本

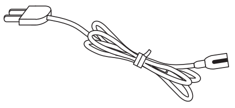


ⓓ短い黒ネジ（4 x 20mm）：4 本



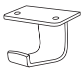
ⓔ銀ネジ（4 x16mm）：4 本


AC アダプター

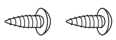

電源コード

**ヘッドホンフックセット**

ヘッドホンフック



取付ネジ（4 x 14mm）：2 本



付録

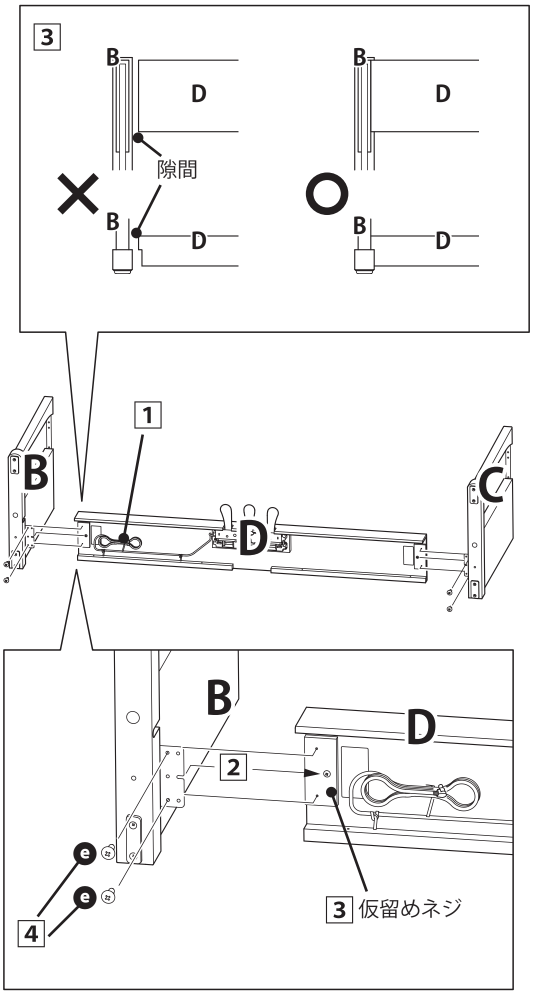
## 1. B・C を D に固定する

**1-1**
D に結ばれているペダルコード（1 箇所のみ）をほどいて、コードを引き出す。

**1-2**
B・C の金属の溝に、D に仮留めされているネジをはめ込む。

**1-3**
B・C と D を**ぴったりと押しあてて**仮留めネジを締める。

**1-4**
残りのネジ穴に ⓔ 銀ネジ 4 本できつく締め固定する。



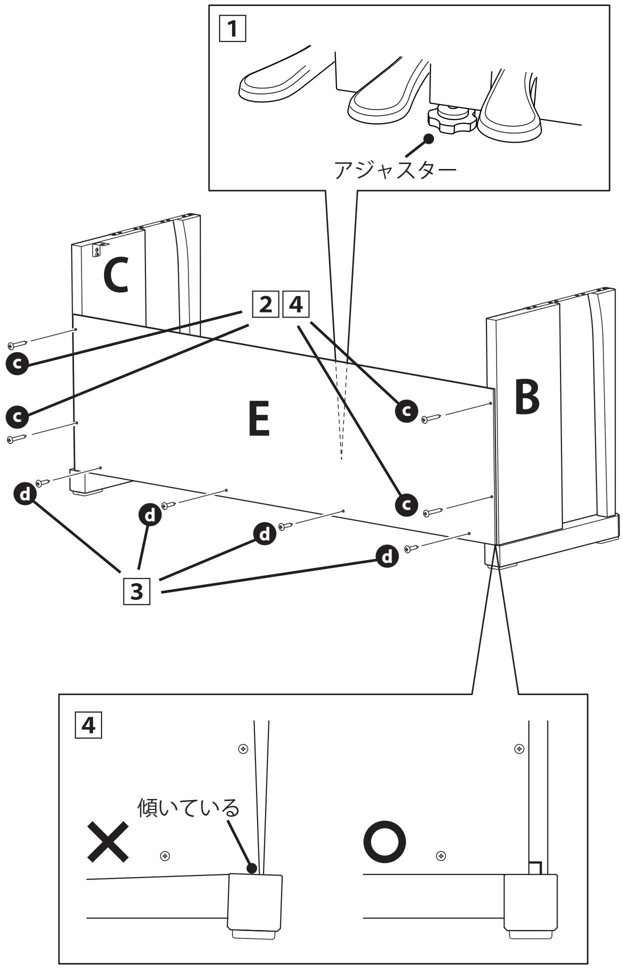

## 2. E を固定する

**2-1**
下図のようにスタンドを起こす。
**このとき床に楽譜や部品がないこと、アジャスターが付いていることを確認する。**

**2-2**
E と B・C のネジ穴の位置を合わせ、ⓒ 長い黒ネジ 4 本で**仮留めする**。

**2-3**
E と D のネジ穴の位置を合わせ、ⓓ 短い黒ネジ 4 本で固定する。

**2-4**
仮留めした ⓒ 長い黒ネジを B・C と E に**隙間がないよう密着させて傾きがないよう締める**。

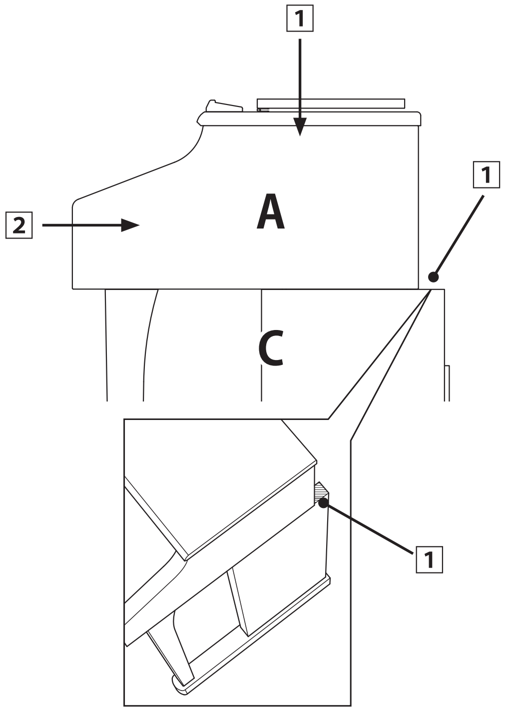


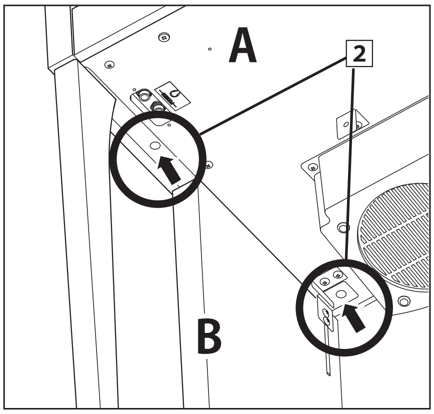
## 3. A を載せる

**3-1**
A を十分上に持ち上げ、真上から見て **B・C の後ろ側の板の上面**が見えるように上から静かに載せる。

**3-2**
**A の底面のネジ穴と B・C の金具の穴**の位置を合わせるように後ろに動かす。
ネジ穴が見えない場合は、**2-4**で締めたネジをゆるめ再調整する。

⚠ **注意**
**手をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。**



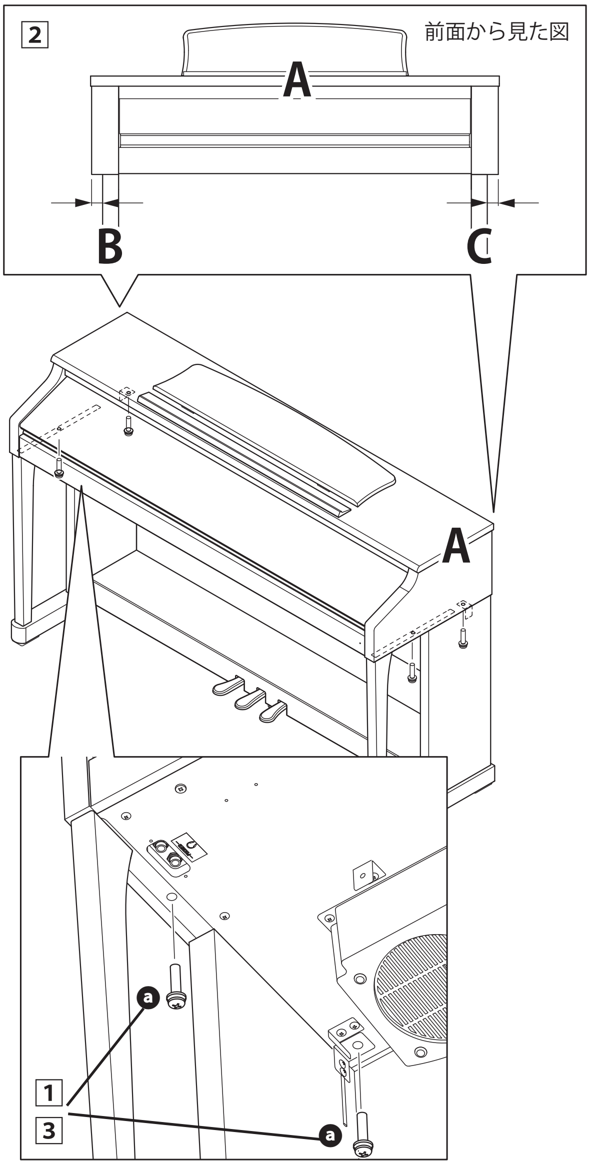

## 4. A を固定する

**4-1**
ⓐ ネジ 4 本をネジ穴に仮留めする。

**4-2**
前面から見て A の左右の張り出し部分が均等になるよう調整する。

**4-3**
仮留めしたネジをきつく締めて固定する。

⚠ **注意**
**必ず付属のネジでしっかりと固定してください。**
**固定しないと、本体がスタンドから落ち大変危険です。**



## 5. ペダルコード・AC アダプターを接続する

**5-1**

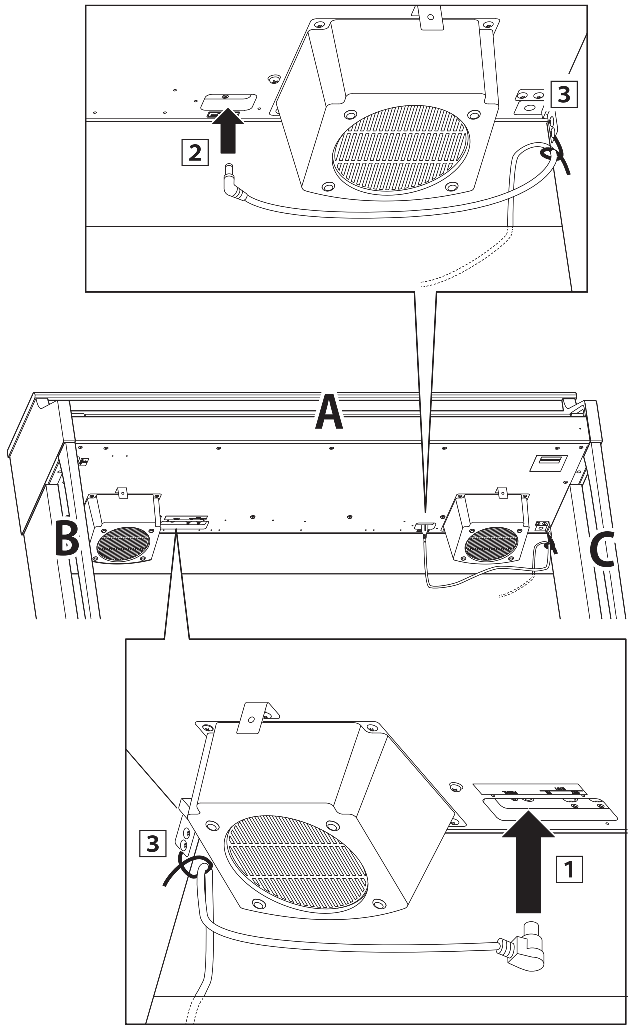
ペダルコードを A の底面にあるペダル端子に接続する。

**5-2**

AC アダプターの端子を A の底面にある DC IN 端子に接続し、AC アダプターに電源コードを接続する。

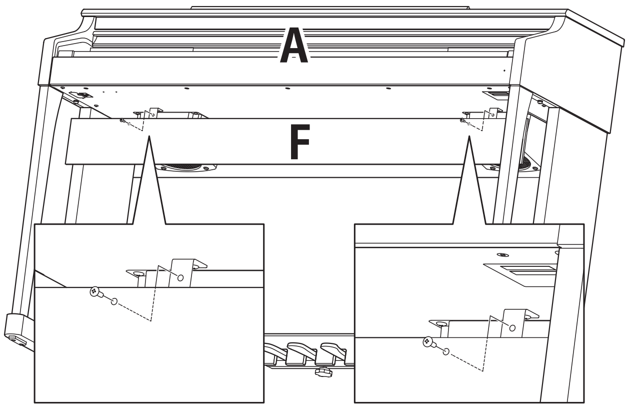
**5-3**

B・C に付いているコードクランプでコードを固定する。



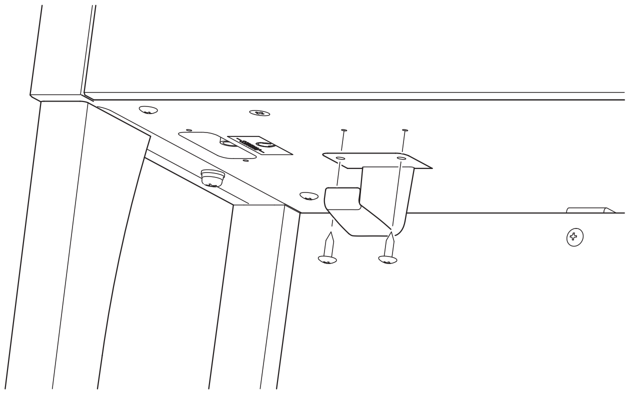

## 6. F を取り付ける

❺先の平らな短いネジ 2 本で A の下にある金具に F を取り付ける。




## 7. ヘッドホンフックを取り付ける

ヘッドホンフックを同じ袋に入っているネジ 2 本で図のように取り付ける。



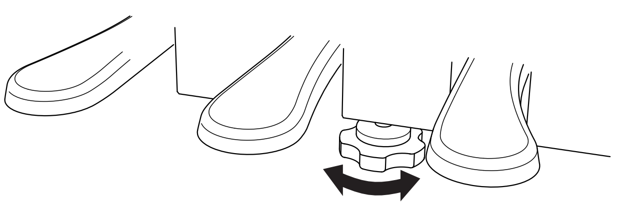
## 8. アジャスターを回す

アジャスターを床にぴったりつくまで回す。

**⚠ 注意**

**アジャスターをしっかり床につけないと、ペダル土台が壊れる恐れがあります。**

**なお、移動の際は引きずらないよう、必ず床から持ち上げて移動してください。**



# CA15 仕様 / 各音色に対応する送受信プログラムナンバー一覧

## CA15 仕様

| | |
|---|---|
| 鍵盤 | 88 鍵　木製鍵盤　RM3 Grand Ⅱ　アイボリータッチ、レットオフフィール |
| 音色 | 8 音色　（ピアノ 1，ピアノ 2，ピアノ 3，ピアノ 4，ストリングス，<br>エレクトリックピアノ，チャーチオルガン，ハープシコード） |
| 同時発音数 | 最大 192 音（音色により異なる） |
| 効果 | リバーブ<br>（ルーム、ラウンジ、スモールホール、コンサートホール、ライブホール、カテドラル） |
| 内部レコーダー | 3 ソング、総記憶音数　約 15,000 音 |
| メトロノーム | 1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、3/8、6/8 拍子 |
| デモ曲 | 全 37 曲 |
| レッスン | バイエル全 126 曲（バリエーション 20 曲を含む），<br>ブルクミュラー全 25 曲（右手 / 左手個別再生可、テンポ変更可） |
| その他機能 | デュアル、4 ハンズ（連弾演奏）、<br>キーオフリリース、ダンパーレゾナンス、タッチ、チューニング、<br>トランスポーズ、ブリリアンス、MIDI 設定機能、オートパワーオフ |
| ペダル | ダンパー（ハーフペダル対応）、ソフト、ソステヌート |
| キーカバー | スライド式 |
| 外部端子 | ヘッドホン（2）、MIDI（IN, OUT） |
| 出力 | 20 W x 2 |
| スピーカー | 13 cm x 2、5 cm x 2 |
| 定格電圧 | AC100V, 50 / 60Hz |
| 消費電力 | 30 W |
| 寸法 | W 137.5 x D 46.5 x H 90 cm（セットアップ時、但し譜面台を倒した状態） |
| 重量 | 59 kg |
| 同梱品 | 本体 / スタンド一式 / 保証書 / 取扱説明書（本書）<br>カワイデジタルピアノユーザー登録のご案内 / 音楽教室のご案内<br>クラシカルピアノコレクション（楽譜集）<br>高低自在椅子 / 電源コード / ヘッドホン / ヘッドホンフック<br>CA15 操作ガイド / スタンド組立図 / PS-154（AC アダプター） |

## 各音色に対応する送受信プログラムナンバー一覧

| 音色名 | マルチティンバーオフの時 | マルチティンバーオンの時 | | |
|---|---|---|---|---|
| | プログラムナンバー | プログラムナンバー | バンク MSB | バンク LSB |
| ピアノ 1 | 1 | 1 | 121 | 0 |
| ピアノ 2 | 2 | 1 | 95 | 16 |
| ピアノ 3 | 3 | 1 | 121 | 1 |
| ピアノ 4 | 4 | 2 | 121 | 0 |
| ストリングス | 5 | 45 | 95 | 1 |
| エレクトリックピアノ | 6 | 5 | 121 | 0 |
| チャーチオルガン | 7 | 20 | 121 | 0 |
| ハープシコード | 8 | 7 | 121 | 0 |

# KAWAI [Model CA15] MIDI インプリメンテーションチャート

Date : October 2012 Version : 1.0

| ファンクション | | 送信 | 受信 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ベーシックチャンネル | 電源 ON 時<br>設定可能 | 1<br>1 ～ 16 | 1<br>1 ～ 16 | |
| モード | 電源 ON 時<br>メッセージ<br>代用 | モード 3<br>×<br>＊＊＊＊＊＊＊＊＊ | モード 1<br>モード 1, 3*<br>× | * 電源 ON 時オムニオン。MIDI チャンネル設定操作によりオムニオフ。 |
| ノートナンバー | <br>音域 | 9 - 120**<br>＊＊＊＊＊＊＊＊＊ | 0 - 127<br>0 - 127 | ** 9 - 120 トランスポーズを含む。 |
| ベロシティ | ノート・オン<br>ノート・オフ | ○<br>○ | ○<br>○ | |
| アフタータッチ | キー別<br>チャンネル別 | ×<br>× | ×<br>× | |
| ピッチ・ベンド | | × | × | |
| コントロールチェンジ | 7<br>64<br>66<br>67 | ×<br>○（右ペダル）<br>○（中ペダル）<br>○（左ペダル） | ○<br>○<br>○<br>○ | ボリューム<br>ダンパー<br>ソステヌート<br>ソフトペダル |
| プログラムチェンジ<br>設定可能範囲 | | ○ | ○ | （プログラムチェンジ対応表参照）［P.34］ |
| エクスクルーシブ | | ○ | ○ | 送信選択可能 |
| コモン | ソングポジション<br>ソングセレクト<br>チューン | ×<br>×<br>× | ×<br>×<br>× | |
| リアルタイム | クロック<br>コマンド | ×<br>× | ×<br>× | |
| その他 | ローカル ON / OFF<br>オールノートオフ<br>アクティブセンシング<br>リセット | ×<br>×<br>×<br>× | ○<br>○<br>○<br>× | |
| 備　考 | | | | |

モード 1 : オムニオン、ポリ　モード 2 : オムニオン、モノ　○ : 有り
モード 3 : オムニオフ、ポリ　モード 4 : オムニオフ、モノ　× : 無し

付録

株式会社 河合楽器製作所
電　子　楽　器　事　業　部
〒430-8665 浜松市中区寺島町200番地
TEL. 053-457-1277 / FAX. 053-457-1279
http://www.kawai.co.jp/

## お問合せ先について

ご不明な点などがございましたら、下記のお客様相談室をご利用下さい。

### ◆お客様相談室

TEL. 053-457-1311 / E-mail. customer@kawai.co.jp
電話受付時間　9：00 ～ 12：00 / 13：00 ～ 17：00
（土曜、日曜、祝日及び弊社規定の休日を除きます。）

### ◆お客様サポート・お問合せフォーム

http://www.kawai.co.jp の「お客様サポート」よりお進みください。

故障と思われる場合については、お買い求めいただいた販売店、もしくはお近くのフィールドサポート担当までご連絡ください。
詳細は同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」の冊子をご参照ください。

KPSZ-0626
Printed in China
817760-R100

©2012（株）河合楽器製作所
本取扱説明書の一部、あるいは全部を無断で複写・転載することを禁止します。
2012 年 10 月発行